

ノートブック コンピューター

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



PCG-707/705

警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることもあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6～11ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご連絡ください。

万一異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたり、キャビネットを破損したとき



- ① 電源を切る
- ② 電源コードや接続ケーブルを抜く
またはバッテリーを取りはずす
- ③ ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に連絡する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながる可能性があります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づく第二種情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブが搭載されています。

- VAIOはソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、MS、MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- So-netは、ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の登録商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

目次

⚠危険・⚠警告・⚠注意	6
こんなことができます	12
マニュアルの使いかた	14
ヘルプの使いかた	15

操作編

基本的な使いかた

電源を入れる	20
電源を切るには	21
再起動するには	23
タッチパッドを使う	24
キーボードを使う	26
文字を入力する	28
日本語入力を準備する	28
入力のしかたを選ぶ	30
文字を入力する	31
フロッピーディスクを使う	36
フロッピーディスクドライブを 取り付ける	36
フロッピーディスクを入れる	38
データを書き込み禁止にする	39
使用できるフロッピーディスク	39
CD-ROMを使う	41
CD-ROMドライブを取り付ける	41
ディスクを入れる	42
使用できるディスク	44

バッテリーで使う	45
バッテリーパックを取り付ける	46
セカンドバッテリーパックを 取り付ける	47
バッテリーを充電する	48

VAIOを使いこなす

インターネット/パソコン通信を 楽しむ	49
インターネットを楽しむには	50
パソコン通信を楽しむには	52
電話/ファックスを使う	53
電話/ファックスを準備する	53
電話をかける	56
電話を受ける	57
ファックスを送信する	58
ファックスを受信する	59
他の機器とデータをやりとりする	60
赤外線(IrDA)でデータを やりとりする	60
シリアルケーブルを使って データをやりとりする	62
ネットワーク(LAN)につないで データをやりとりする	62
PCカードを使ってデータを やりとりする	63
音楽CD/ビデオCDを再生する	64
Media Barで音楽CD/ ビデオCDを再生する	64
CDを長時間聞くには	65
いろいろなソフトウェアを使う	67

拡張編

周辺機器を接続する

内蔵モデムを電話回線につなぐ	70
プリンターをつなぐ	73
外部ディスプレイをつなぐ	74
デジタルスチルカメラを使う	76
外部スピーカー/マイクをつなぐ	78
キーボード/マウスをつなぐ	79
ドッキングステーションに 取り付けて使う	80

本体を拡張する

メモリーを増設する	87
PCカードを使う	91

セットアップ編

Sony Notebook Setupを使う

本機の情報を確認する	96
赤外線データ通信 (IrDA) の設定を 変更する	97
パラレルポートの設定を変更する	99
起動ディスクを指定する	101
ディスプレイパネルを閉じたときの モードを設定する	102
タッチパッドの感度を調節する	103
パスワードを登録する	104
デバイスを一時的に使用できない ように設定する	106
使用するデバイスごとに詳細な 設定をする	107

PowerPanelを使う

バッテリーの消費電力を節約する ..	109
--------------------	-----

BatteryScopeを使う

バッテリーの残量を確認する	112
---------------------	-----

Windowsの設定を変更する

ディスプレイの設定を変更する	115
表示するディスプレイを選ぶ	117
画面の背景を変更する	121
ウィンドウの枠の色を変更する	123

その他

使用上のご注意	126
お手入れ	129
保証書とアフターサービス	130
コンピューターの基礎知識	131
省電力動作モードについて	134
主な仕様	136
各部のなまえ	138
故障かな?と思ったら	144
リカバリーCDで 本機を再セットアップする	148
キーボードショートカット	150
索引	153

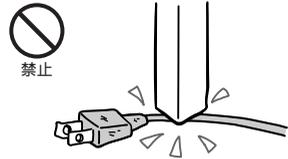


下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などに
より**死亡**や**大けが**の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 本機と机や壁などの間にはさみこんだりしない。
 - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となることがあります。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご相談ください。



内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- メモリーを増設するときは、この取扱説明書の「メモリーを増設する」(87ページ)に従って注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。



付属のACアダプター以外は使用しない

火災や感電の原因となります。



禁止

雷が鳴りだしたら、テレホンコードや電源プラグに触れない

感電の原因となります。



禁止

ひざの上で長時間使用しない

長時間使用すると本体の底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。



禁止

本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。

海外などで、異なる電圧で使用すると、火災や感電の原因となることがあります。



強制



下記の注意事項を守らないと、**健康を害する**おそれがあります。

ディスプレイ画面を長時間続けて見ない

ディスプレイなどの画面を長時間見続けると、目が疲れ
たり、視力が低下するおそれがあります。

ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを
感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してくだ
さい。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは
医師の診察を受けてください。



禁止

キーボードを使いすぎない

キーボードやタッチパッドなどを長時間使い続けると、
腕や手首が痛くなったりすることがあります。

キーボードやタッチパッドを使用中、体の一部に不快感
や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息
してください。万一、休息しても不快感や痛みが取れな
いときは医師の診察を受けてください。



禁止



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品に損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。



接続するときは電源を切る

電源コードや接続ケーブルを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切ってください。感電や故障の原因となることがあります。



指定された電源コードや接続ケーブルを使う

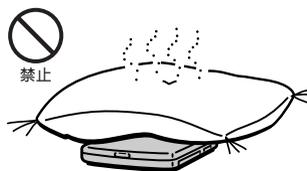
取扱説明書に記されている電源コードや接続ケーブルを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。



通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 毛足の長い敷物(じゅうたんや毛布など)の上に放置しない。
- 布などでくるまない。



通電中の本体やACアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



本体やACアダプターを布や布団などでおおった状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。また、横にしたり、ひっくり返して置いたりしないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



本機の上に重いものを載せない

壊れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は、電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



移動させるときは、電源コードや接続ケーブルを抜く

接続したまま移動させると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となったり、接続している機器が落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

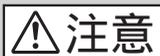
また、本機を落とさないようにご注意ください。



コネクターはきちんと接続する

- コネクターの内部に金属片を入れないでください、ピンとピンがショート(短絡)して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むと、ピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。





注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品に損害**を与えたりすることがあります。

長時間使用しないときは電源プラグを抜く

長時間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。



プラグをコンセントから抜く

直射日光のあたる場所や熱器具の近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。



禁止



液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。



禁止



電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

危険

- 指定された充電方法以外で充電しない。
- 火の中に入れてはいけない。ショートさせたり、分解しない。電子レンジやオープンで加熱しない。コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。
- バッテリーパックから漏れた液が目に入った場合は、きれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。
- 本体付属または別売りのバッテリーパック以外は使用しないでください。

警告

バッテリーパックを廃棄する場合は、以下のご注意をお守りください。

- 地方自治体の条例などに従う。
- 一般ゴミに混ぜて捨てない。

または、ソニーサービスステーションにお持ちください。

本機の発熱についてのご注意

使用中に本体の底面やACアダプターが熱くなることがあります。CPUの動作や充電時の電流によって発熱していますが、故障ではありません。使用している拡張機器やソフトウェアによって発熱量は異なります。

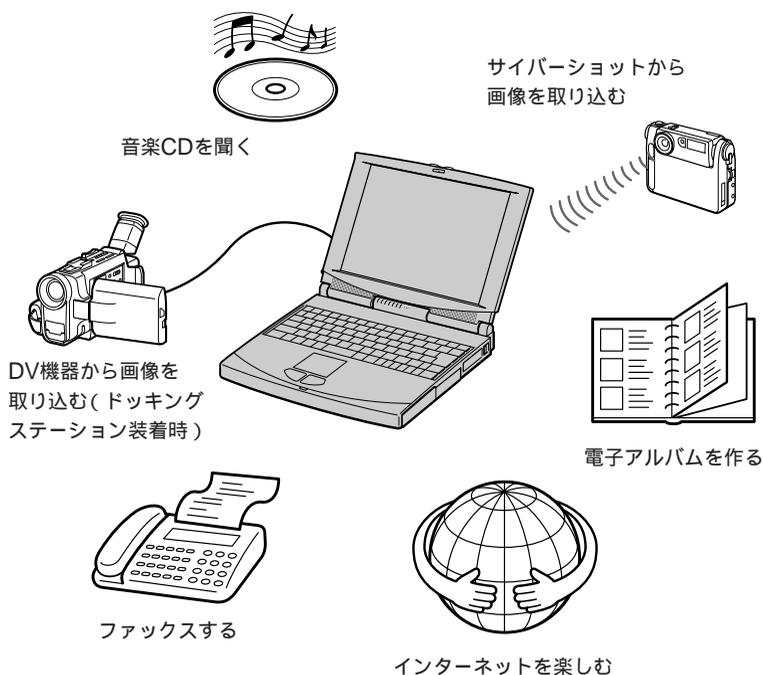
本体やACアダプターが普段よりも異常に熱くなったときは本機の電源を切り、ACアダプターの電源コードを抜き、バッテリーパックを取り外してください。次に、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または購入された販売店に連絡してください。

こんなことができます

VAIOノートが広げるデジタルワールド

本機はデジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラレコーダーなどのAV機器と組み合わせて使うことを想定して設計された、ソニーならではのノートブックコンピュータです。

ここでは、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。



サイバーショットから画像を取り込む

別売りのソニーデジタルスチルカメラ「サイバーショット」からケーブルをつなぐずに、赤外線通信で画像を高速に取り込めます。

DV機器から画像を取り込む

別売りのドッキングステーションを本機に装着することで、DV端子を持つデジタルカメラレコーダーなどのDV機器から、デジタル信号のまま美しい画像を取り込めます。

取り込んだ画像を自由自在に活用する

サイバーショットやDV機器から取り込んだ画像は、付属のPictureGear Liteソフトウェアで簡単に管理できます。付属のAdobe PhotoDeluxeソフトウェアを使えば、取り込んだ画像にタイトルを入れたり、特殊効果をかけたりできます。

本機で作成した画像をDV機器で録画することもできるなど、取り込んだ画像を思いのままに活用できます。

AV再生を楽しむ

付属のMedia Barソフトウェアを使って、音楽CDやビデオCDを再生できます。リモコンを使って音楽CDを長時間聴くこともできます。

インターネットを楽しむ

通信用のモデムを内蔵しているため、インターネットに接続して世界中の情報に接したり、電子メールをやり取りしたりできます。

ノートブックパソコンとしての特長

本機は軽量で、バッテリーで長時間使用できるノートブックパソコンです。この特長を生かして、本機を使いこなしてください。

外出先でデータ収集

携帯電話やPHSとつないで、外出先でもインターネットに接続して情報収集したり、電子メールで情報交換できます。

旅行や出張のおともに

旅行先から家族・友人に電子メールを送信できます。旅の便りも電子メールで。その日のうちに新鮮な感動が届きます。

使用環境に合わせたバッテリー管理

付属のPowerPanelソフトウェアを使えば、処理速度を優先したり、バッテリーの寿命を優先したりなどといった動作環境を簡単に設定できます。また、付属のBatteryScopeソフトウェアを同時に使うことで、バッテリーの使用可能時間なども同時に把握できます。これで「プレゼンテーション中に突然のバッテリー切れ」といった心配もありません。

マニュアルの使いかた

本書は、以下の4章で構成されています。

□ 操作編

パソコンを初めてお使いになる方は、「基本的な使いかた」からお読みください。一歩進んだ使いかたは「VAIOを使いこなす」をご覧ください。

□ 拡張編

プリンターなどの周辺機器のつながりかたや、PCカードの使いかたなどについて説明しています。

□ セットアップ編

本機をお使いになる状況や好みに合わせて、本機の設定を変更できます。ここでは、付属のソフトウェアを使った設定のしかたを説明しています。

□ その他

本機をご使用になる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。本機がうまく動作しないときは、「故障かな？と思ったら」をお読みください。

本機のできることの一部をご紹介します。それぞれ詳しくは右側の参照先の説明をご覧ください。

また、本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

こんなことがしたい	詳しくは
インターネットやパソコン通信を楽しみたい	「インターネット／パソコン通信を楽しむ」(49ページ)
CDを聞きたい	「音楽CD／ビデオCDを再生する」(64ページ)
電話をかけたい	「電話／ファックスを使う」(53ページ)
ファックスを送りたい	「電話／ファックスを使う」(53ページ)
デジタルスチルカメラを使いたい	「デジタルスチルカメラを使う」(76ページ)
他のパソコンのデータを本機で使いたい	「他の機器とデータをやりとりする」(60ページ)

ヘルプの使いかた

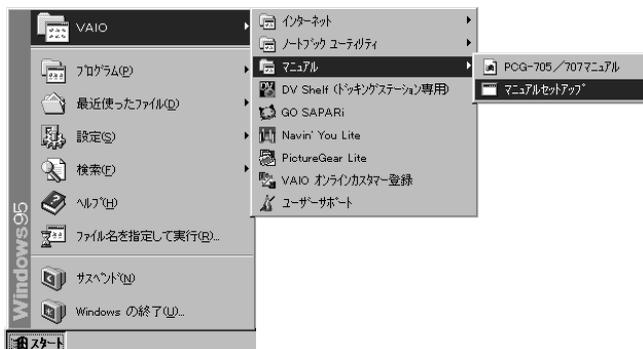
この取扱説明書の内容は、オンラインヘルプとして画面上でお読みいただけます。取扱説明書を持ち歩かなくても、外出先で本書の内容を参照できます。

オンラインヘルプを準備する

オンラインヘルプを見るには、付属のソフトウェア「Adobe Acrobat Reader 3.0J」を本機にインストールする必要があります。

次の手順に従って操作してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[マニュアル]を選び、[マニュアルセットアップ]をクリックする。

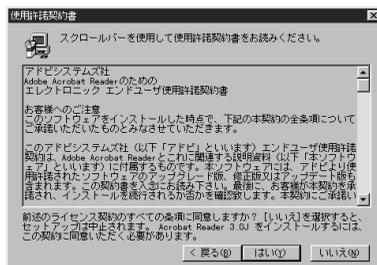


- 2 [はい]をクリックする。
インストーラーが起動します。インストールをしないときは、[いいえ]をクリックします。



3 画面の内容を確認し、[次へ>]をクリックする。

「ようこそ」画面のつぎに、「使用許諾契約書」が表示されます。内容を確認し、[はい]をクリックします。



引き続き画面の指示に従って操作します。前の画面を見るには[戻る]をクリックします。

4 [終了]をクリックする。



5 [OK]をクリックする。

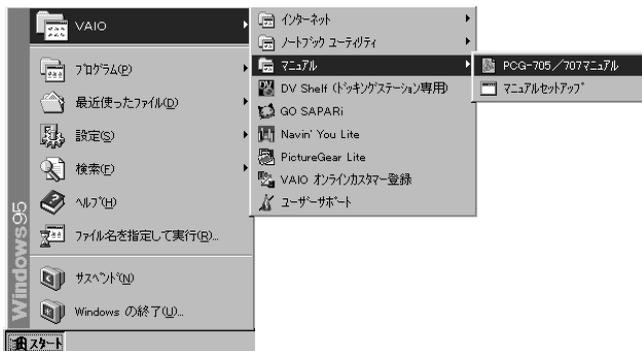


これでインストールが終了しました。

オンラインヘルプを見るには

オンラインヘルプを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[マニュアル]を選び、[PCG-705 / 707マニュアル]をクリックする。



オンラインヘルプの表紙が表示されます。



オンラインヘルプの見かた

基本的なオンラインヘルプの見かたを説明します。



各ソフトウェアのオンラインヘルプを見るには

本機に付属しているソニー製のソフトウェアにもオンラインヘルプが添付されています。それぞれのオンラインヘルプの使いかたについては詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

操作編

この章では、最初に本機の基本的な使いかたを、次にいろいろな目的にあった本機の使いかたを説明します。

第

1

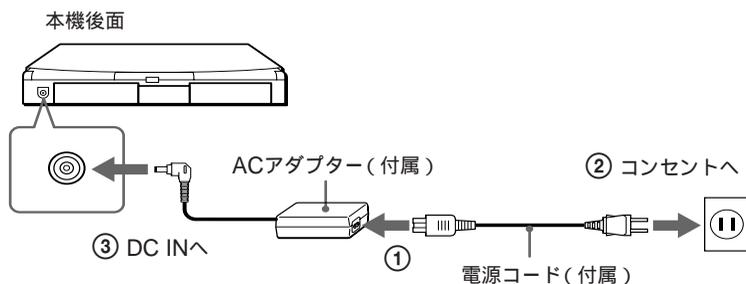
章

基本的な使いかた

電源を入れる

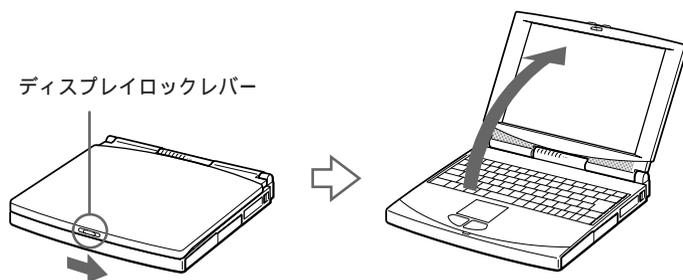
ここではAC電源につないだときの電源の入れかたについて説明します。バッテリーを使うときは、「バッテリーで使う」(45ページ)をご覧ください。

1 AC電源をつなぐ。



2 ディスプレイパネルを開く。

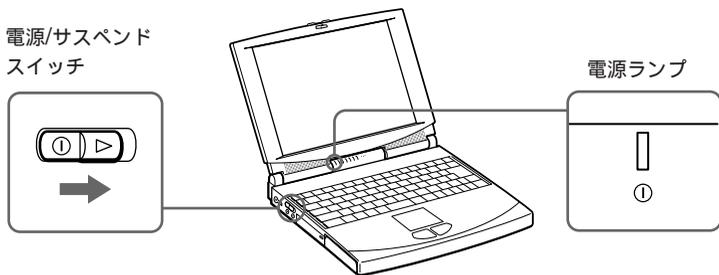
ディスプレイロックレバーを矢印の方向にずらしながら、ディスプレイパネルを開きます。



3 電源/サスペンドスイッチを▷の方向にずらし、電源ランプが点灯したらはなす。

本機の電源が入り、しばらくして、Windows 95が起動します。

初めて電源を入れたときは、Windows 95セットアップ画面が表示されます。Windows 95セットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。



電源を切るには

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

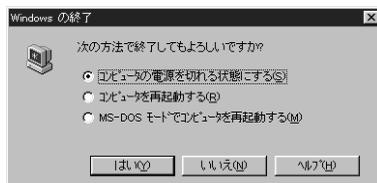
以下の手順通りに電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などのファイルが使えなくなったりすることがあります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックする。
「スタート」メニューが表示されます。



2 メニューの[Windowsの終了]をクリックする。

「Windowsの終了」が表示されます。



3 「コンピュータの電源を切れる状態にする」をクリックして選び、つぎに[はい]をクリックする。

「しばらくお待ちください」と数秒表示されてから、本機の電源が自動的に切れます。

「スタート」メニューから[Windowsの終了]を選んでも電源が切れないときは

電源/サスペンドスイッチを4秒間以上▷の方向にずらしたままにして、電源が切れたらはなします。ただし、この操作をすると作成したファイルが使えなくなることがあります。



移動するときなどしばらく作業を中断するときや、翌日まで本機を使わないときなどは、サスペンドモードやSave To Diskモードを使うと便利です。

詳しくは「バッテリーの消費電力を節約する」(109ページ)、「省電力動作モードについて」(134ページ)をご覧ください。

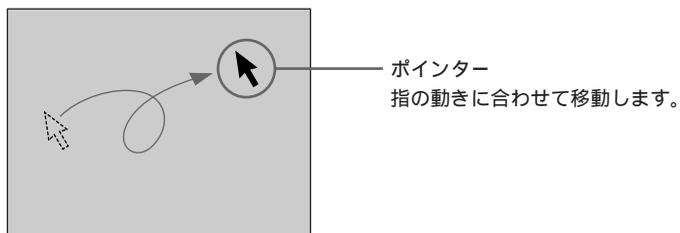
再起動するには

本機の設定を変更したり、アプリケーションソフトをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要があります。

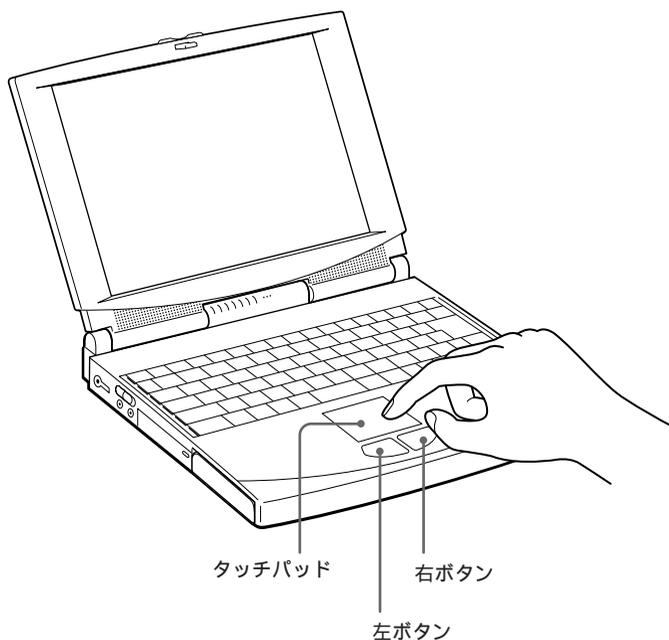
- 1** [スタート]ボタンをクリックする。
「スタート」メニューが表示されます。
- 2** メニューの[Windowsの終了]をクリックする。
「Windowsの終了」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「コンピュータを再起動する」をクリックして選び、つぎに[はい]をクリックする。
「しばらくお待ちください」と数秒間表示されてから、本機が再起動します。

タッチパッドを使う

タッチパッドに触れて指を動かすと、画面上のポインターも同じ方向に移動します。



ポインターを目的の位置まで動かして左または右のボタンを押すだけで、メニューを選んだりさまざまな命令をコンピューターに伝えることができます。



クリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、タッチパッドの手前にある左ボタンを1回押します。

[OK]や[キャンセル]などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。

また、タッチパッドを指で1回軽くたたいても同じ働きをします。

ダブルクリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを2回続けて押します。

ワードプロセッサや表計算などのソフトウェアを実行したり、作成した文書などのファイルを開くときなどに使います。

またタッチパッドを、2回続けて軽くたたか、2本の指で同時に1回軽くたたいても同じ働きをします。

ドラッグする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、タッチパッド上で指を動かし、希望の位置でボタンをはなします。

ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。

右クリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、右ボタンを1回押します。

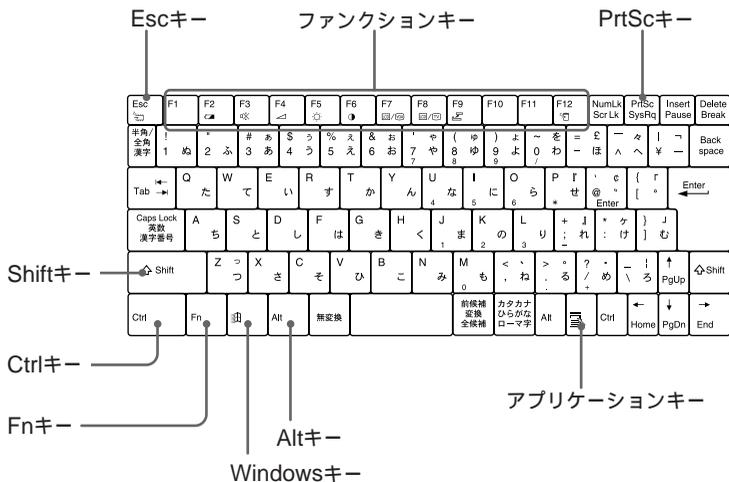
押したときのポインターの位置によって、さまざまな内容のポップアップメニューが表示されます。

また、タッチパッドを3本の指で同時に1回軽くたたいても同じ働きをします。

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、パソコンへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。

文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」(28ページ)をご覧ください。



なまえ

機能

ファンクションキー

使用するソフトウェアによって動きが異なります。

Ctrl(コントロール)キー

文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって動きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

例)Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。
メニューから「保存する」を選ばずに、
ファイルを保存できます。

なまえ	機能
Alt(オルト)キー	<p>文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。オルタネートキーともいいます。</p> <p>使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p> <p>例) Altキーを押しながら半角/全角キーを押す。押すたびに入力する文字を漢字または英数字に切り換えます。</p>
Shift(シフト)キー	<p>文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。</p>
Windowsキー 	<p>Windows 95の「スタート」メニューが表示されます。</p> <p>他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p> <p>「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」(150ページ)をご覧ください。</p>
アプリケーションキー 	<p>タッチパッドの右ボタンを押したときと同じ働きをします。</p>
Fn(エフエヌ)キー	<p>キーボード上で紫色で表記されている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。また、ファンクションキー(F1からF12キー)などと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。</p> <p>「Fnキーとの主な組み合わせと機能」(151ページ)をご覧ください。</p>
Esc(エスケープ)キー	<p>設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。</p>
PrtSc(プリントスクリーン)キー	<p>表示されている画面を取り込みます。取り込んだ画像は「ペイントブラシ」などのソフトウェア上に貼りつけられます。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p>

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」という文章を作成するためのソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。

キーボード上の各キーの名前と働きについて詳しくは、「キーボードを使う」(26ページ)をご覧ください。

日本語入力を準備する

ここでは、ワードパッドを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

まず、ワードパッドを起動します。

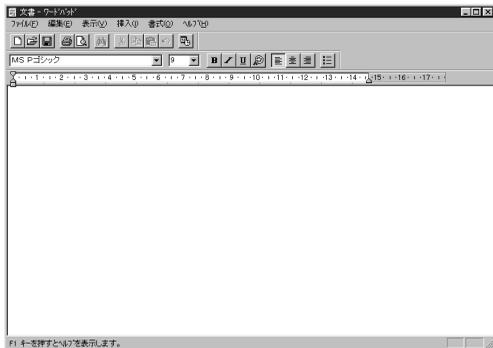
1 「スタート」ボタンをクリックする。

スタートメニューが表示されます。



2 [プログラム]をクリックして、ポインターを[アクセサリ]に合わせてから、[ワードパッド]をクリックする。

ワードパッドが起動し、文字を入力する画面が表示されます。



2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。

日本語を入力するためには、画面に表示されているMS-IME97のツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。



MS-IME97ツールバー

- 1 MS-IME97ツールバーのいちばん左側の[A]をクリックする。
文字入力選択メニューが表示されます。



- 2 [全角ひらがな]をクリックする。

画面上に表示されているツールバーのいちばん左側の表示が[A]から[あ]に変わり、日本語を入力できるようになります。



[A]から[あ]に変わる。

ツールバーが表示されていないときは

タスクバーの右側にあるをクリックして、「ツールバーを表示」をクリックします。

ツールバーについて詳しくは、付属のWindows 95の取扱説明書をご覧ください。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。

なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせ、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換える

Ctrlキーを押しながら、英数キーを押す。

ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

かな入力



KANAの文字が黒で表示されます。



Ctrlキーを押しながら英数キーを押す。

ローマ字入力



KANAの文字が灰色で表示されます。

文字を入力する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったVAIOノート」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



- ローマ字入力の場合
S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。
- かな入力の場合
せ、か、い、し、`（濁点）、ゆ（Shiftキーを押しながら「ゆ」を押します）、う、に、の順にキーを押します。
キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 スペースキーを押す。



入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。
まちがった漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、何回かスペースキーを押します。

3 Enterキーを押す。



変換が確定します。

間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

Backspaceキー：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Deleteキー：カーソルのある位置の1字を消します。

Escキー：確定していない文字をすべて消去します。

2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。



- ローマ字入力の場合

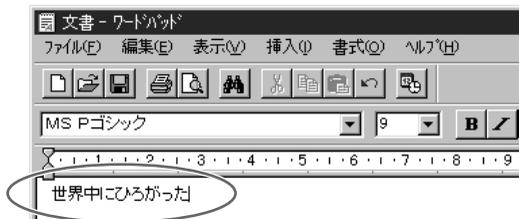
H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。

- かな入力の場合

ひ、ろ、か、`（濁点）、っ（Shiftキーを押しながら「つ」を押します）、た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

3 英字を入力する

- 1 MS-IME97のツールバーのいちばん左側の[あ]をクリックして、[半角英数]を選ぶ。



ツールバーのいちばん左側が[A]になり、アルファベットが入力できる状態になります。

- 2 Shiftキーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。



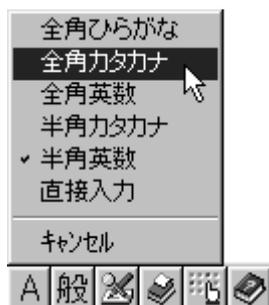
- 3 Enterキーを押す。



アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shiftキーを押す必要はありません。

4 カタカナを入力する

- 1 MS-IME97のツールバーのいちばん左側の[A]をクリックして、[全角カタカナ]を選ぶ。



ツールバーのいちばん左側が「ア」になり、カタカナが入力できる状態になります。

- 2 「ノート」の読みを入力する



- ローマ字入力の場合
N、O、-(長音、キー)、T、Oの順にキーを押します。
- かな入力の場合
の、(長音、キー)との順にキーを押します。
キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

3 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

これで「世界に広がったVAIOノート」と入力できました。

キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、付属のWindows 95の取扱説明書をご覧ください。

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽い、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。

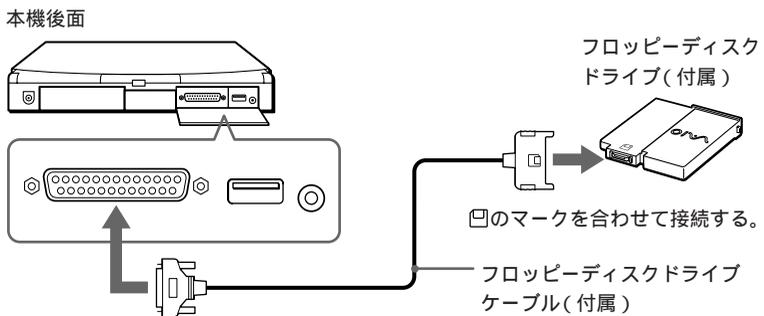
ここでは、フロッピーディスクドライブの取り付けかたや、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクドライブを取り付ける

本機はフロッピーディスクドライブを外付けドライブとして使うことも、マルチバースペイに内蔵することもできます。

外付けドライブとして使う

フロッピーディスクドライブケーブル(付属)を使って、フロッピーディスクドライブ(付属)を本機に接続します。



FDD/PRINTERへ

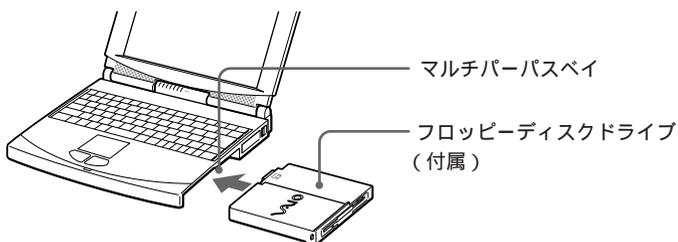
- ①コネクタの上下を確認して、しっかり差し込む。
- ②コネクタの両わきのネジをしっかりとしめる。

電源を切ってからフロッピーディスクドライブを取り付けたときは電源を入れると、フロッピーディスクドライブは自動的に認識されます。

電源を切らずにフロッピーディスクドライブを取り付けたときは取り付けただけでは使えません。フロッピーディスクを使うためには、取り付けてから「Sony Notebook Setup」ソフトウェアでパラレルポートの設定を変更する必要があります。詳しくは、「パラレルポートの設定を変更する」(99ページ)をご覧ください。

内蔵ドライブとして使う

本機右側面のマルチパーパスベイにフロッピーディスクドライブを取り付けることもできます。電源を切ってから取り付けてください。なお、取り付けたあとの設定は必要ありません。



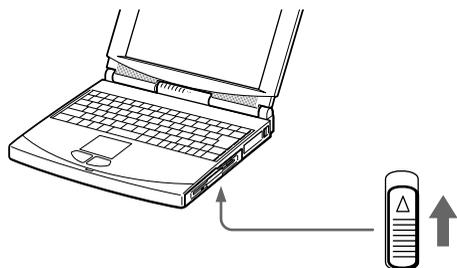
VAIOマークのある面を上にして挿入します。
取りはずしレバーが確実にロックされるまで
押し込んでください。

ご注意

出荷時、本機のマルチパーパスベイにはCD-ROMドライブが取り付けられています。本機の電源を切ってCD-ROMドライブを取りはずしてから、フロッピーディスクドライブを取り付けてください。CD-ROMドライブを取りはずすには、「CD-ROMドライブを取りはずすには」(41ページ)をご覧ください。

フロッピーディスクドライブを取りはずすには

電源を切ってから、フロッピーディスクドライブ底面の取りはずしレバーを矢印の方向(奥)にずらし、ディスクドライブを引き出します。



取りはずしレバー

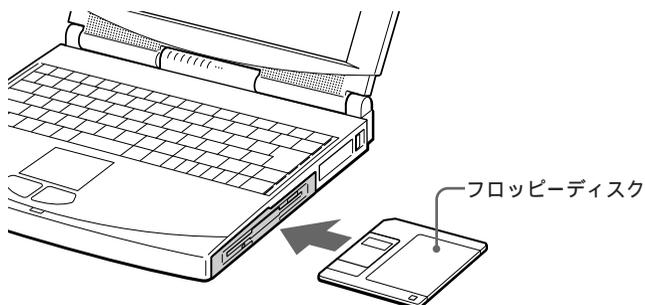
ご注意

フロッピーディスクドライブを取りはずしたあとは、ウェイトセーバーをマルチパーパスベイに取り付けておいてください。

ウェイトセーバーの取り付けかたについては、47ページをご覧ください。

フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



本機で使うフロッピーディスクは、あらかじめ初期化しておく必要があります。市販されているフロッピーディスクをお使いになるときは、「DOS/V 1.44MBフォーマット済」のものをご購入ください。初期化する必要がなくなります。

その他、本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、次ページの「使用できるフロッピーディスク」をご覧ください。

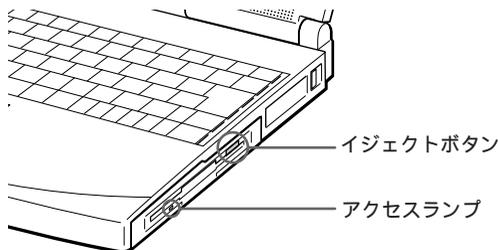
フロッピーディスクの初期化について詳しくは、Windows 95の取扱説明書をご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

ディスクドライブのアクセスランプが点灯していないことを確認してから、イジェクトボタンを押します。

ご注意

アクセスランプが点灯しているときにイジェクトボタンを押すと、ディスクの破損の原因となります。



イジェクトボタンを押してもフロッピーディスクが取り出せないときはフロッピーディスクドライブを取りはずして、ITテクニカルレスポンスセンターにご連絡ください。

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

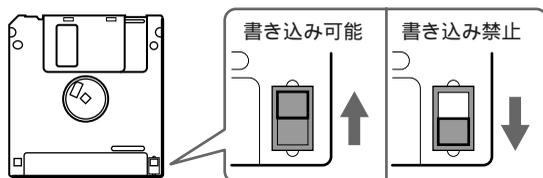
□ 書き込み可能

データの書き込みが可能な状態です。

□ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。

フロッピーディスク裏面



使用できるフロッピーディスク

3.5型フロッピーディスクには、2HD(両面高密度)タイプと2DD(両面倍密度倍トラック)タイプのものであり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。

本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きとも可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きとも可。
2HD 1.2Mバイト	読み書きとも可。 (ただし、フロッピーディスクドライブを外付けにしているときは読み書きとも不可。) FORMAT、SYS、DRVSPACE(ドライブスペース)、DISKCOPYコマンドは実行不可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のパソコンとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンの フロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは 2DD 720Kバイト
1.2Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは 2DD 720Kバイト

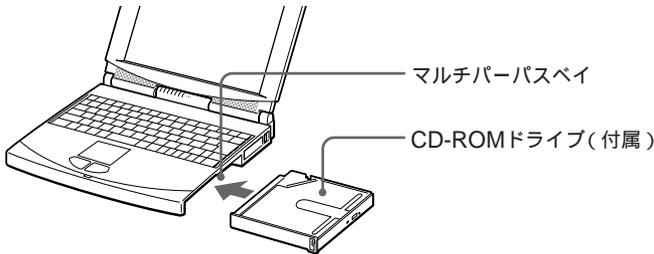
- 2HD 1.2Mバイトタイプのフロッピーディスクのデータを利用するときは、いったん2HD 1.44Mバイトタイプのフロッピーディスクへコピーしてから利用することをおすすめします。
- 市販のアプリケーションソフトはフロッピーディスクの種類に関係なく作られています。一部のソフトウェアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用に作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

CD-ROMを使う

CD-ROMは、コンピューターで扱うプログラムやデータを記録した、読みとり専用の記録メディアです。ここでは、CD-ROMドライブの取り付けかたや、CD-ROMの取り扱いについて説明します。

CD-ROMドライブを取り付ける

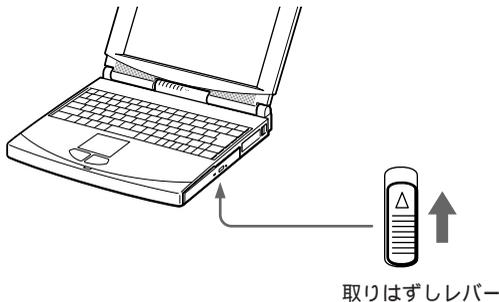
CD-ROMドライブ(付属)を本機のマルチパーパスベイに取り付けます。本機の電源を切ってから行ってください。



電源を入れると、CD-ROMドライブは自動的に認識されます。

CD-ROMドライブを取りはずすには

本機の電源を切ってから、CD-ROMドライブ底面の取りはずしレバーを矢印の方向(奥)にずらし、ドライブを引き出します。



ご注意

CD-ROMドライブを取りはずしたあとは、ウェイトセーバーをマルチパーパスベイに取り付けておいてください。

ウェイトセーバーの取り付けかたについては、47ページをご覧ください。

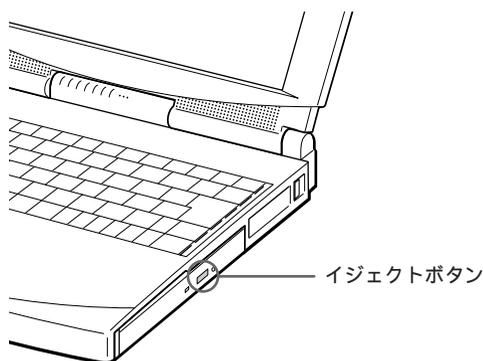
ディスクを入れる

本機の電源を入れてから、CD-ROMを入れます。

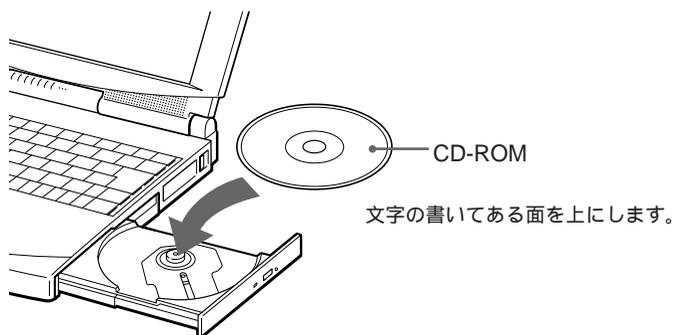
ご注意

工場出荷時はCD-ROMドライブにピックアップカバーが装着されています。ピックアップカバーを取り出してから、ディスクをトレイにのせてください。

- 1 イジェクトボタンを押す。
ディスクトレイがでできます。



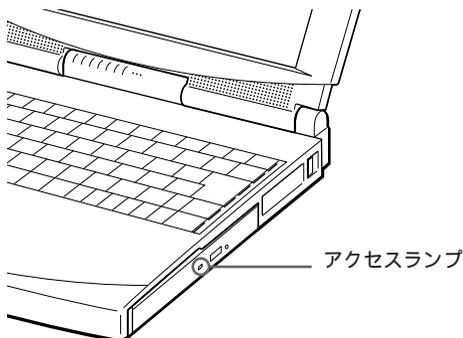
- 2 ディスクをトレイにのせ、トレイ中央の突起部にディスクをはめ込む。



- 3 ディスクトレイを軽く押して、トレイを閉める。

ディスクを取り出すには

ドライブにあるアクセスランプが点滅していないことを確認してから、イジェクトボタンを押します。



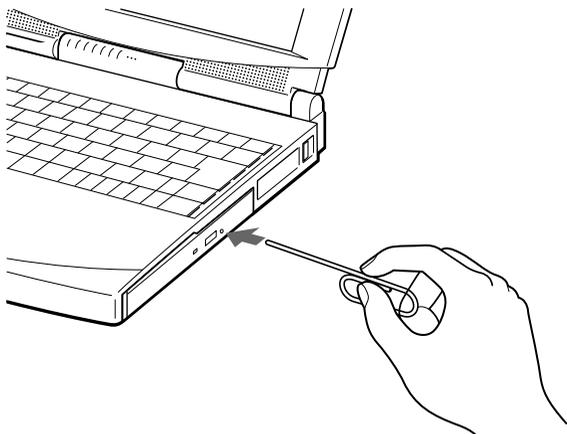
ご注意

本機がサスペンドモードまたはSave To Diskモードのときは、ディスクを取り出せません。本機を通常の状態に復帰させてから、イジェクトボタンを押してください。

サスペンドモード、Save To Diskモードについて詳しくは、「バッテリーの消費電力を節約する」(109ページ)、「省電力動作モードについて」(134ページ)をご覧ください。

イジェクトボタンを押してもディスクが取り出せないときは

太い針金のようなものを、マニュアルイジェクト穴に押し込んでください。



使用できるディスク

本機のCD-ROMドライブで再生できるディスクは以下の通りです。

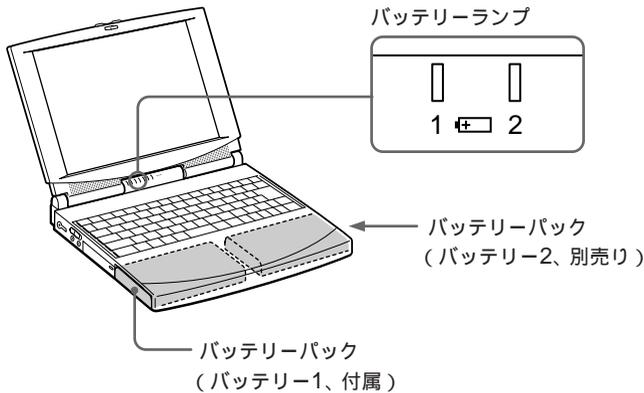
ディスクの種類	マーク
CD-ROM	
音楽CD	
CD Extra	
ビデオCD	 
フォトCD	_____
電子ブック	

バッテリーで使う

充電したバッテリーパックを本機に装着していると、AC電源につながなくても本機を使えます。付属のバッテリーパックに加えて、別売りのバッテリーパックを取り付けることもできます。

ご注意

- 出荷時に装着されているバッテリーは完全には充電されていないため、はじめてお使いになるときからバッテリーが消耗している状態になっていることがあります。
- バッテリーの残量が6～7%になると、自動的にSave To Diskモードになりますが、このとき、作業中の文書が失われることがあります。
詳しくは、「省電力動作モードについて」(134ページ)をご覧ください。



バッテリーランプについて

本機の動作状態を示します。

点灯	バッテリー動作中
はやく点滅	バッテリーが消耗している
ゆっくり点滅	バッテリー充電中
消灯	バッテリー切れ、またはAC電源で動作中

□ バッテリーランプ1

本機左側面に取り付けたバッテリーの状態を示します。

□ バッテリーランプ2

本機右側面のマルチパーパスベイに取り付けたバッテリーの状態を示します。

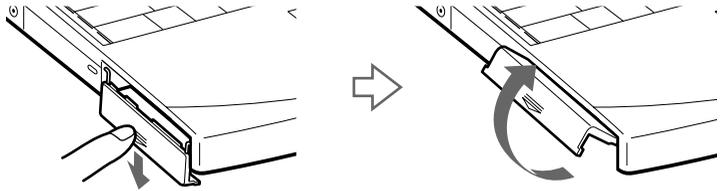


- 完全に充電したバッテリーで本機を約2～3時間使用できます。バッテリーの使用時間について詳しくは、「バッテリーの残量を確認する」(112ページ)をご覧ください。
- AC電源につないでいるときは、バッテリーパックを装着しているときでも、AC電源から電源が供給されます。
- バッテリーで長時間使うには
付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使って本機の動作モードを節電モードに変更することで、バッテリーの使用時間をのばすことができます。詳しくは「バッテリーの消費電力を節約する」(109ページ)をご覧ください。
- バッテリーの残量を確認するには
付属の「BatteryScope」ソフトウェアを起動すると、バッテリーの残量と予想使用時間を確認できます。詳しくは「バッテリーの残量を確認する」(112ページ)をご覧ください。

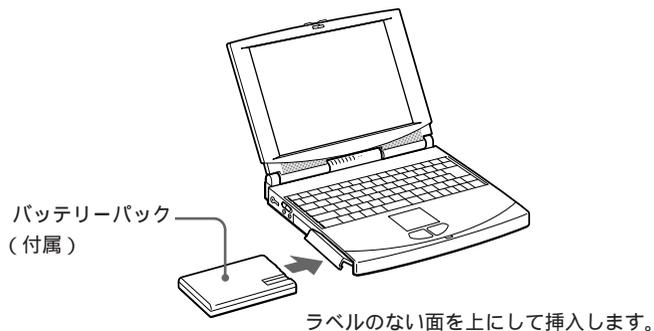
バッテリーパックを取り付ける

本機左側面のバッテリーベイにバッテリーパックを取り付けます。

1 バッテリーベイのふたを開ける。

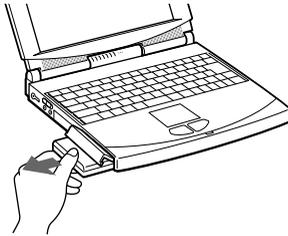


2 バッテリーを挿入する。



- 3** バッテリーベイのふたを閉じる。
カチッと音がするまでしっかりと閉じてください。

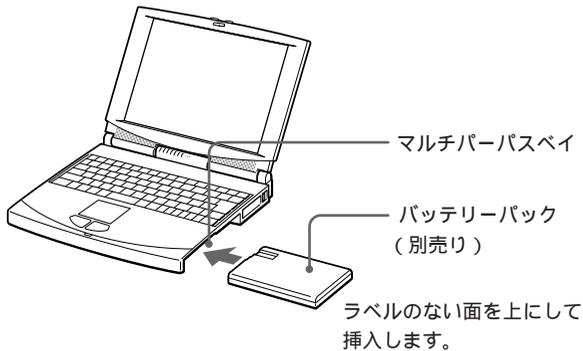
バッテリーパックを取りはずすには
バッテリーベイのふたを開けて、バッテリーを引き出します。



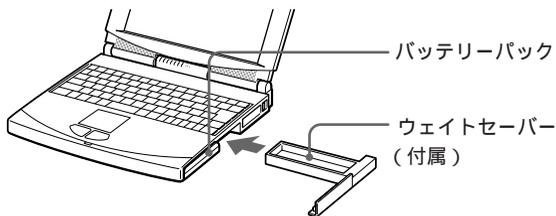
セカンドバッテリーパックを取り付ける

付属のバッテリーに加えて、別売りのバッテリーパックを取り付けると、
バッテリーでの使用時間が約2倍になります。

- 1** 本機右側面のマルチパーパスベイにバッテリーを取り付ける。

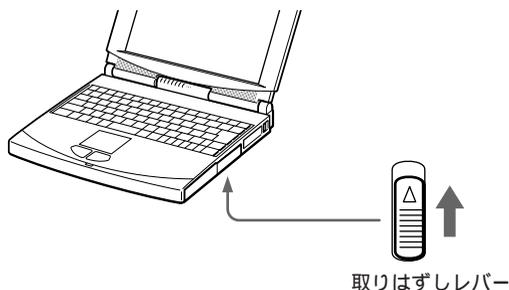


- 2** ウェイトセーバー(付属)を取り付ける。
ウェイトセーバーはバッテリーを固定するために必要です。



バッテリーパックを取りはずすには

ウェイトセーバーの底面にある取り外しレバーを矢印の方向(奥)にずらし、バッテリーを引き出します。



ご注意

バッテリーパックを取りはずしたあとは、ウェイトセーバーをマルチパーパスベイに取り付けておいてください。

ウェイトセーバーの取り付けかたについては、47ページをご覧ください。

バッテリーを充電する

本機をAC電源につないでいれば、本機を使ってもバッテリーは充電されます。充電中は、バッテリーランプがゆっくり点滅します。

バッテリーの残量が空の状態から充電されるまでに約1.5時間かかります(85%充電、使用状況による)

バッテリーが85%まで充電されると、バッテリーランプは消灯します。

85%まで充電されたバッテリーは、約1時間後に完全に充電されます。

本機に2つのバッテリーを取り付けているときは

最初に取り付けたバッテリーから充電されます。バッテリーの充電が85%まで完了したら、次に取り付けたバッテリーが充電されます。

どのバッテリーが充電されているかは、本機のバッテリーランプで確認してください。

 ドッキングステーションでも充電できます

別売りのドッキングステーションでもバッテリーを充電できます。詳しくは、「ドッキングステーションで充電する」(85ページ)をご覧ください。

VAIOを使いこなす

インターネット/パソコン通信を楽しむ

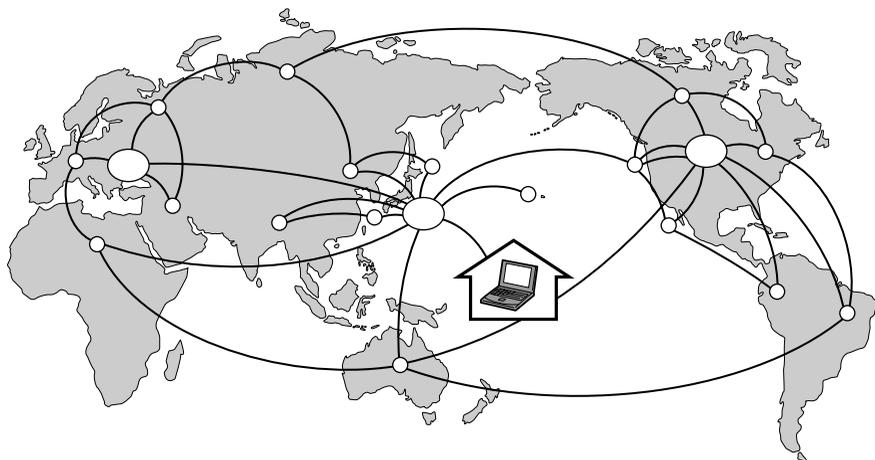
本機には電話回線に接続して通信を行うためのモデムが内蔵されているので、電話線につないでインターネットやパソコン通信を楽しむことができます。

「インターネット」とは？

世界中のコンピューターがつながった、地球規模のネットワークのことです。インターネットにつながったパソコンを使うことで、世界中の情報を入手したり、世界にむけて自分の情報を発信したりすることができます。電子メールを利用すれば、ほとんど同時に国内だけでなく、世界中の友人・知人に連絡を取ることもできます。

インターネットを利用して、以下のようなことができます。

- ホームページを見る
- 自分のホームページをつくって公開する
- 電子メールをやり取りする
- オンラインショッピングをする



「パソコン通信」とは？

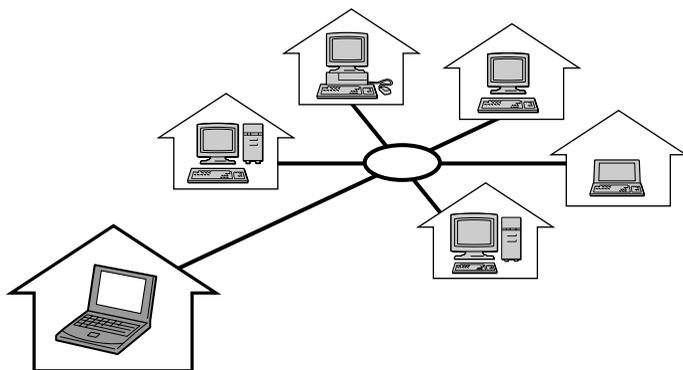
パソコン通信には運営主体である大手の運営会社が多数設立されていて、多くの人が参加しています。

パソコン通信の良いところは、自分の興味のある分野の電子会議室を利用することで、同じように関心を持っている人と、ネットワーク上で交流を深めることができる点です。このような会議室は、さまざまな分野で開設されています。また、ネットワーク上の商店を利用したオンラインショッピングも楽しめます。

「地球規模のインターネット」に対して、「生活に密着した地域中心」を方針としている小規模なパソコン通信のネットワークもあります。また、現在ではパソコン通信を通してインターネットにつながくこともできるようになりました。

パソコン通信を利用して、以下のようなことができます。

- フォーラムなどの電子会議室に参加する
- 有料データベース、オンラインショッピングを使う
- 電子メールをやり取りする



インターネットを楽しむには

世界中の情報に接することのできるインターネットですが、インターネット自体は電話線のように、ケーブルがつながったものでしかありません。情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。

また、電話回線を通してインターネットにつながくために、インターネットサービスプロバイダー（以下、「プロバイダー」と略します）という接続業者と契約する必要があります。

プロバイダーについて

現在では数多くのプロバイダーがありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえで、ご自分にあったプロバイダーと契約するようおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、それぞれのプロバイダーにお問い合わせください。また、契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダーもあります。クレジットカードをお持ちでないときは、クレジットカードなしで契約できるプロバイダーをお探してください。

準備1 電話線につなぐ

本機に内蔵しているモデムを電話線につなぎます。
詳しくは「内蔵モデムを電話回線につなぐ」(70ページ)をご覧ください。

準備2 インターネットサービスプロバイダーと契約する

本機にはソニーコミュニケーションネットワーク(株)の運営する、So-netのスターターキットが付属しています。このスターターキットを利用すると、契約とそのあとの設定をより簡単に行えます。詳しくは付属の「会員募集のご案内」をご覧ください。

準備3 接続のための設定をする

プロバイダーと契約したあとの設定内容は、プロバイダーの指示にしたがってください。



電話線がないところでも、携帯電話やPHSをつないでインターネットに接続できます。なお、本機と携帯電話やPHSをつなぐには、お使いの電話に対応した通信用のPCカードなどが必要です。

詳しくは、お持ちの携帯電話またはPHSの販売店にご相談ください。

パソコン通信を楽しむには

パソコン通信を楽しむためには、パソコン通信の運営会社と契約する必要があります。

会員が多い、自分の興味・関心のある分野に詳しい人が多く参加している、どうしても利用したいサービスがある、などといった基準で運営会社を選ぶと、よりパソコン通信を楽しめます。

パソコン通信の運営会社について

現在では数多くのパソコン通信の運営会社がありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえで、ご自分にあった運営会社と契約するようおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、それぞれの運営会社にお問い合わせください。

また、契約時にクレジットカードが必要になる運営会社もあります。クレジットカードをお持ちでないときは、クレジットカードなしで契約できる運営会社をお探してください。

準備1 電話線につなぐ

本機に内蔵しているモデムを電話線につなぎます。
詳しくは「内蔵モデムを電話回線につなぐ」(70ページ)をご覧ください。

準備2 パソコン通信の運営会社と契約する

本機には、パソコン通信運営会社の、パソコン通信のスターターキットが付属しています。このスターターキットを利用すると、契約とそのあとの設定をより簡単に行えます。
詳しくは付属の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。



電話線がないところでも、携帯電話やPHSをつないでパソコン通信を楽しめます。なお、本機と携帯電話やPHSをつなぐには、お使いの電話に対応した通信用のPCカードなどが必要です。
詳しくは、お持ちの携帯電話またはPHSの販売店にご相談ください。

電話 / ファックスを使う

本機に電話回線をつなぐと、普通の電話と同じように電話をかけ、相手と話せます。また、本機に内蔵しているモデムはファックスにも対応していますので、電話回線をつないでファックスを送受信することもできます。電話をかけたりファックスを送ったりするためには、付属の

Communication Centerソフトウェアを使用します。電話回線へのつなぎかたについては、「内蔵モデムを電話回線につなぐ」(70ページ)をご覧ください。

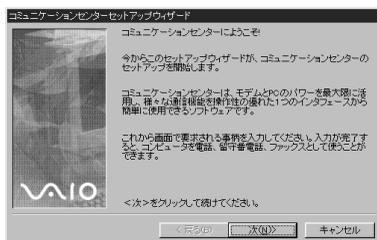
ここでは、① 電話をかける、② 電話を受ける、③ 留守番電話として使う、④ ファックスを送信する、⑤ ファックスを受信する、という基本的な使いかたのみ説明します。

機能の詳細な説明や制限事項などについては、Communication Centerに付属しているヘルプをご覧ください。

電話 / ファックスを準備する

本機で電話 / ファックスを使うためには、本機を電話回線につないでから、Communication Centerソフトウェアを起動する必要があります。

- 1 本機を電話回線に接続する。
電話回線へのつなぎかたについて詳しくは、「内蔵モデムを電話回線につなぐ」(70ページ)をご覧ください。
- 2 [スタート]ボタンをクリックして、ポインターを[プログラム]に合わせ、[Communication Center]を選び、[Communication Centerの起動]をクリックする。
Communication Centerソフトウェアが起動し、「セットアップウィザード」が表示されます。



3 [次>]をクリックする。

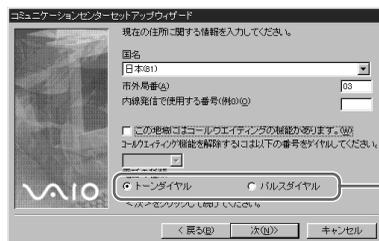
画面の指示にしたがって必要な情報を入力し、[次へ>]をクリックします。

前の画面を見るには、[<戻る]をクリックします。



4 電話の種類を選ぶ。

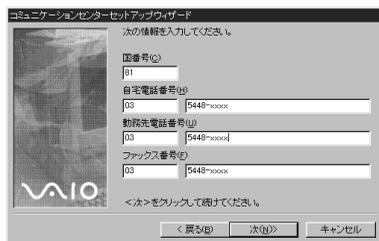
お使いの電話回線の種類を選びます。



お使いの電話回線がブッシュホン回線のときは[トーンダイヤル]を、ダイヤル回線のときは[パルスダイヤル]をクリックして選びます。

5 電話番号を入力する。

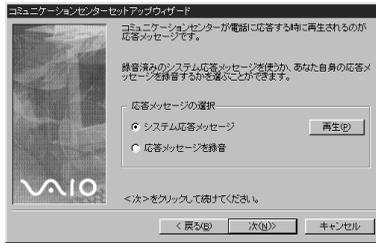
自宅電話番号を入力します。勤務先電話番号、ファックス番号は必要がなければ空欄のままでもかまいません。



引き続き画面の指示にしたがって必要な情報を入力します。

6 応答の設定をする。

応答メッセージや、自動応答するまでの呼び出し回数などを設定します。



7 [終了]をクリックする。

画面の指示に従ってすべて入力したら、[終了]をクリックします。



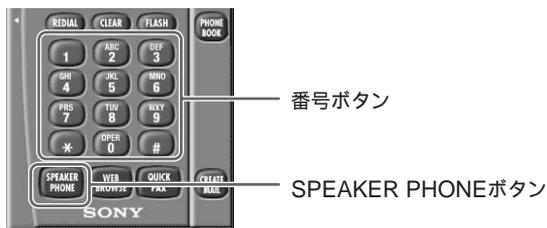
これで電話をかけたたりファックスを送受信できるようになりました。

電話をかける

53ページの「電話 / ファックスを準備する」が終わったら、電話をかけてみましょう。

- 1 画面上の電話番号ボタンをクリックして、相手先の電話番号を入力する。

電話番号はキーボードでも入力できます。



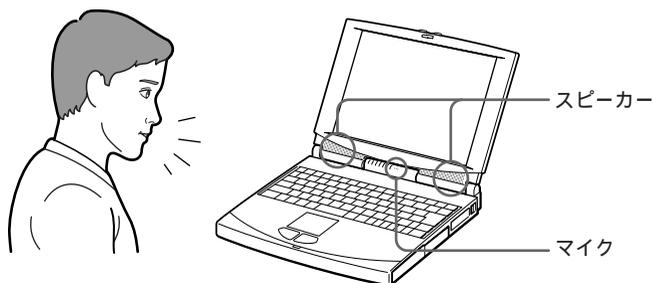
電話番号を入力すると、左下の「SPEAKER PHONE」ボタンが「DIAL」ボタンに変わります。

- 2 [DIAL] をクリックする。

手順1で指定した電話番号に自動的にダイヤルします。

ダイヤルを始めると、左下の「DIAL」ボタンが「HANGUP」ボタンに変わります。

- 3 相手が電話に出たら、本機に内蔵のマイクに向かって話す。



相手の音声は内蔵スピーカーから聞こえます。受話器を取る必要がないので、キーボードを操作していて手がふさがっているときでも話せます。

電話を切るには

画面左下の[HANGUP] をクリックします。

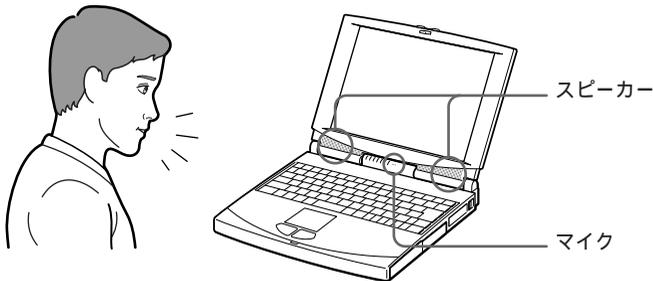
電話を受ける

本機で電話を受けることもできます。

- 1 画面左下の[ANSWER]をクリックする。
電話がかかってくると、画面左下の「SPEAKER PHONE」ボタンが「ANSWER」ボタンに変わります。



- 2 本機に内蔵のマイクに向かって話す。



相手の音声は内蔵スピーカーから聞こえます。受話器を取る必要がないので、キーボードを操作していて手がふさがっているときでも話せます。

留守番電話として使う

電話がかかってくると、すでに設定されているメッセージまたはご自分で録音したメッセージで自動応答します。ファックスのみに応答することなどもできます。

詳しくは、「Communication Center」のヘルプをご覧ください。
留守番電話として使うには、以下の準備を行っておいください。

- 1 本機にACアダプターをつなぐ。
- 2 自動的に本機がサスペンドモードやSave To Diskモードにならないように設定する。
PowerPanelソフトウェアを使って設定します。
詳しくは、PowerPanelのヘルプをご覧ください。

- 3 モデム着信レジュームの設定を「オン」にする。
電話がかかってきたときに自動的に動作復帰します。詳しくは、PowerPanelのヘルプをご覧ください。

ディスプレイパネルを閉じるときは
ディスプレイパネルを閉じると、液晶ディスプレイの電源が切れるように設定します。詳しくは「ディスプレイパネルを閉じたときのモードを設定する」(102ページ)をご覧ください。

ファックスを送信する

本機でファックスを送信できます。本機で作成したり、本機に読み込んだりした文書を、そのままファックスとして送れるため、印刷する手間と紙を節約できます。

ここでは、アプリケーションソフトウェアで作成した文書を直接ファックスで送る手順を説明します。

- 1 アプリケーションソフトウェアで、ファックスで送りたい文書を作成する。
- 2 文書を作成したアプリケーションソフトウェアで、[印刷] (または[プリント]など文書を印刷するためのコマンド) を実行する。「印刷」が表示されます。

ワードパッドでの例



- 3 [使用するプリンタ]をクリックして、[Communication Center Fax]を選ぶ。



「ファックス送信」が表示されます。

- 4 相手先の電話番号を入力する。
- 5 [ファックス送信]をクリックする。

ファックス送信が始まります。

送信をやめるときは、[キャンセル]をクリックします。

ファックスを受信する

ファックスを受信するときは、送られてきたファックスを画像データとして直接受け取るため、あとでファックスを見ながら必要な内容をパソコンに入力する手間が省けます。

本機は電話がかかってくると、自動的にファックスを受信します。

通話中でもファックスを受信できます。詳しくは、「Communication Center」のヘルプをご覧ください。

ご注意

受け取ったファックスは画像データとして取り扱われます。そのため、ファックス中の文字をそのまま文字テキストとして利用することはできません。



電話線がないところでも、携帯電話やPHSをつないでファックスを送受信できます。本機と携帯電話やPHSをつなぐには、お使いの電話に対応した通信用のPCカードなどが必要です。

詳しくは、お持ちの携帯電話またはPHSの販売店にご相談ください。

他の機器とデータをやりとりする

本機で作成したデータを他機に送ったり、他機で作成したデータを本機で受け取ったりすることができます。自宅や職場などで複数のパソコンをお使いのときは、作成したデータをやりとりすることで、本機をより活用いただけます。また、データ交換の方法を工夫することで、Macintoshなど、Windowsが動作しない機種とデータをやりとりすることもできます。

例えば...

外出するときに、必要なデータだけを職場のデスクトップパソコンから本機に読み込んで、外出先でデータを修正します。職場に戻ってから、本機で修正したデータをデスクトップパソコンに戻して、データを加工したり保存したりできます。

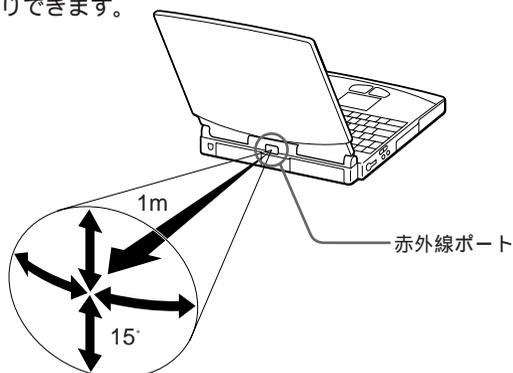
ここでは、データ交換で使われている、以下の方法について説明します。

- 赤外線 (IrDA) を使ってやりとりする
- シリアルケーブルを使ってやりとりする
- ネットワークを使ってやりとりする
- PCカードを使ってやりとりする

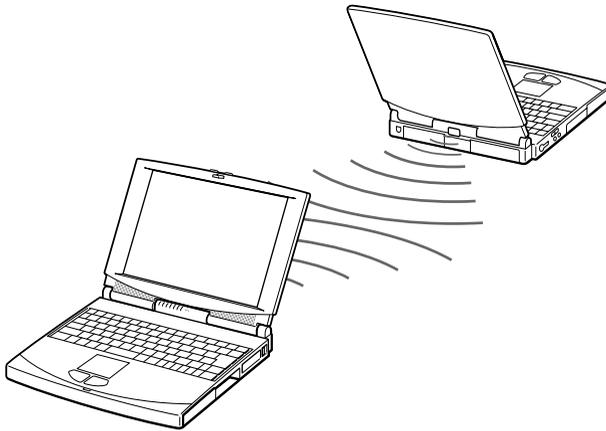
赤外線 (IrDA) でデータをやりとりする

本機後面の赤外線ポートを使って、IrDA対応の赤外線ポートの付いた他の機器とデータをやりとりできます。ケーブルをつなぐずにデータの送受信ができるため、ケーブルをつなぐ手間が省けるうえに、ケーブルを使ったときに比べて短時間でデータをやりとりできます。

パソコンだけでなく、赤外線ポートを持っている機器であればデータをやりとりできます。例えば、ソニー製のデジタルスチルカメラDSC-F1/F2にもIrDA対応の赤外線ポートがついているため、本機と赤外線ですべてデータをやりとりできます。



他のノートパソコンとデータをやりとりするときは、下図のように配置してください。



実際にデータをやりとりするには、付属の「トランジットTranXit」ソフトウェアを使います。操作方法について詳しくは、「TranXit」の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

データを正しく送受信するために、赤外線でデータをやりとりするときは、以下の点にご注意ください。

- 通信を行う機器を近づけ過ぎない。
- 赤外線ポートは真正面で向き合うように配置する。
- 赤外線ポート間に物を置かない。
- 強い直射日光の当たる場所や、インバーター蛍光灯の下では赤外線通信を避ける。

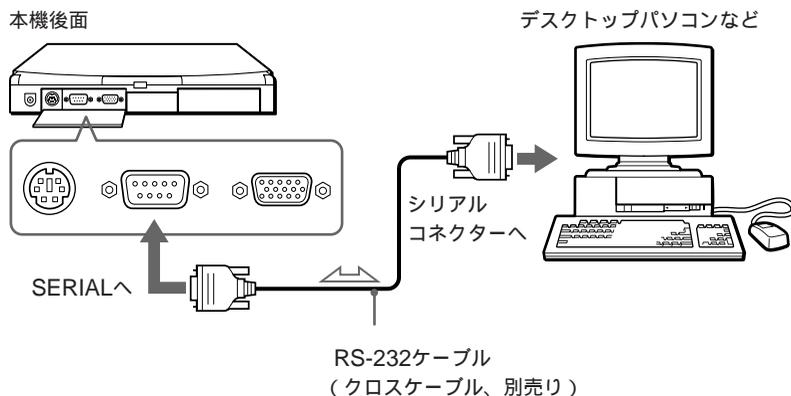


赤外線ポートのない機器でも、別売りの赤外線通信アダプターを取り付けると、本機と赤外線でデータをやりとりできるようになるものもあります。

詳しくは、お持ちの機器の販売店にご相談ください。

シリアルケーブルを使ってデータをやりとりする

本機とデスクトップパソコンなどを接続ケーブルを使って接続して、データをやりとりできます。赤外線通信に比べて通信に多少時間はかかりますが、シリアルコネクタのある機器とならRS-232Cケーブル1本でデータをやりとりできます。



ご注意

- 接続ケーブルをつなぐときは、本機と接続する機器および周辺機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- RS-232Cケーブルは、クロスケーブルをお使いください。ストレートケーブルでつないでも、データをやりとりできません。
- RS-232Cケーブルを購入されるときは、コネクタの形状に十分ご注意ください。

ネットワーク(LAN)につないでデータをやりとりする

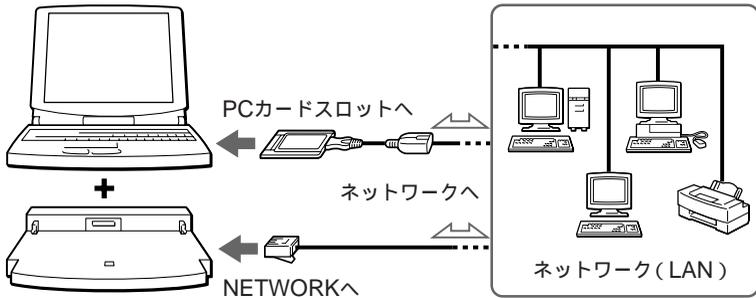
本機を職場などのネットワーク(LAN)に接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。

本機とネットワークをつなぐには、ネットワークPCカードが必要です。この場合、接続したいネットワークに合わせた種類のネットワークカードをお使いください。

また、本機にネットワークドッキングステーションを装着しているときは、ネットワークドッキングステーション後面のNETWORKコネクターを使って、10BASE-Tタイプのイーサネットのネットワークに接続できます。ドッキングステーションについて詳しくは、「ドッキングステーションに取り付けて使う」(80ページ)をご覧ください。

ネットワークに接続するために必要な周辺機器や設定については、職場などのネットワークのシステム管理担当者にご相談ください。

本機



ネットワーク
ドッキングステーション

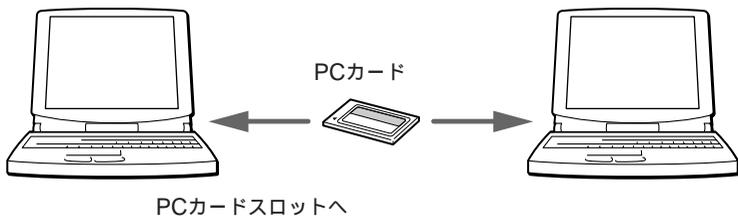
PCカードを使ってデータをやりとりする

PCカードを使って、PCカードに対応した機器とデータをやりとりできます。PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」(91ページ)をご覧ください。

本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリーカードに保存して、データをやりとりできます。

本機

ノートブックパソコンなど



音楽CD / ビデオCDを再生する

音楽CDやビデオCDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。(一部ソフトウェアを除きます。)また、本機をサスペンドモードに設定すると、音楽CDを長時間再生できます。

Media Barで音楽CD / ビデオCDを再生する

Media Barを使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。「Media Bar」を使うには以下の流れに沿って行います。

画面上の「AV再生のセットアップ」アイコンをダブルクリックする

Media Barを設定するための画面が表示されます。

画面の指示に従って操作する

画面の指示に従って必要な項目を入力します。

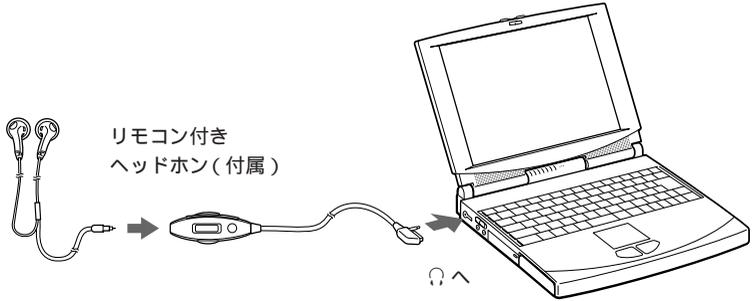
本機を再起動する

再起動すると、画面上部に「Media Bar」操作画面が表示されます。「Media Bar」の使いかたについては、「Media Bar」の取扱説明書をご覧ください。

CDを長時間聞くには

本機がサスペンドモードのとき(134ページ)は、付属のリモコン付きヘッドホンを使って音楽CDを長時間再生できます。再生時間は完全に充電されたバッテリーが取り付けられているとき、約6~7時間です。この再生方法では、本機の操作をしながら音楽CDを聞くことはできません。本機を操作しながら聞きたいときはMedia Barソフトウェアを使います。

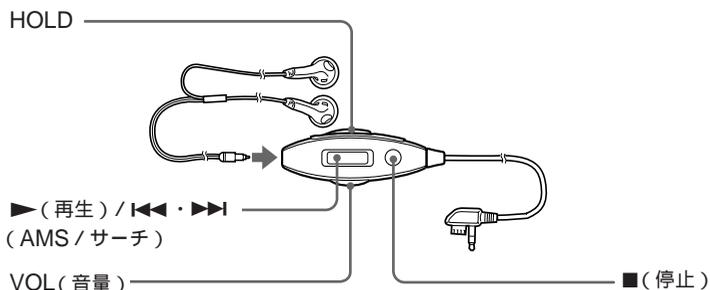
- 1 リモコン付きヘッドホンを本機に取り付ける。



- 2 Fnキーを押しながら、Escキーを押す。
本機がサスペンドモードに入ります。
- 3 リモコンの■ボタンを押す。
- 4 CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押す。
ディスクトレイがでできます。
- 5 聞きたい音楽CD をのせて、ディスクトレイを軽く押す。
ディスクトレイが閉まります。
- 6 リモコンの▶ボタンを押す。
再生が始まります。
再生をやめるときは、■ボタンを押してからCD-ROMドライブのイジェクトボタンを押して、音楽CDを取り出します。

サスペンドモードから通常の動作モードに戻すには
何れかのキーを押します。

リモコンの使いかた



操作	押すボタン
今聞いている曲を 頭出しする (AMS ¹⁾ 機能)	◀◀ (▶ ボタンの◀◀側) を1度押す。 ²⁾
前の曲、さらに前の曲を 頭出しする (AMS機能)	◀◀ (▶ の◀◀側) を繰り返し押す。
次の曲を頭出しする (AMS機能)	▶▶ (▶ の▶▶側) を1度押す。
さらに先の曲を頭出しする (AMS機能)	▶▶ (▶ の▶▶側) を繰り返し押す。
早戻しする (サーチ機能)	◀◀ (▶ の◀◀側) を押したままにする。 ²⁾
早送りする (サーチ機能)	▶▶ (▶ の▶▶側) を押したままにする。 ²⁾

¹⁾ AMS = Automatic Music Sensorの略。曲の頭を探す機能です。

²⁾ 演奏中のみ操作できます。

💡 誤動作を防ぐには (HOLD機能)

HOLDスイッチを矢印の方向にずらしません。誤ってボタンが押されるのを防げます。

HOLD機能を解除するには、HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらしません。

⚠️ ご注意

- ・ リモコン付きヘッドホンは本機に付属のものをお使いください。
- ・ 再生を停止してから音楽CDを取り出すときは、リモコンの■ボタンを押してから1分以内に取り出してください。1分以上たつと、イジェクトボタンを押してもディスクトレイがでてきません。この場合は、もう1度リモコンの■ボタンを押してから取り出してください。

いろいろなソフトウェアを使う

本機は、さまざまな用途に応じたソフトウェアを付属しています。これまで説明してきた使いかたの他にも、幅広く本機を活用していただけます。ここでは、付属のソフトウェアの中から一部をご紹介します。

□ 画像データを管理する

「PictureGear Lite」ソフトウェアを使います。

デジタルスチルカメラなどから読み込んだいろいろな種類の画像データをまとめて管理できます。

使いかたについて詳しくは、「PictureGear Lite」の取扱説明書をご覧ください。

□ 仮想世界を散歩する

「Community Place Browser」ソフトウェアを使います。

インターネット上に点在する仮想世界を、現実の世界のように散歩します。使いかたについて詳しくは、「Community Place Browser」の取扱説明書をご覧ください。

□ 地図を見る

「Navin' You Lite」ソフトウェアを使います。

ハードディスクにプリインストールされている東京23区版の地図のほか、ナビ研規格に準拠している地図ディスクを見たり、地図上の情報を検索することができます。

使いかたについて詳しくは、「Navin' You Lite」の取扱説明書をご覧ください。

このほかにも、以下のような使いかたができます。

- 画像を加工する
- インターネットのホームページを見る
- 辞書を使う
- ゲームを楽しむ

別冊の「付属ソフトウェア一覧」には、本機に付属のソフトウェアをまとめてご紹介しています。そちらもあわせてご覧ください。

拡張編

第 2 章

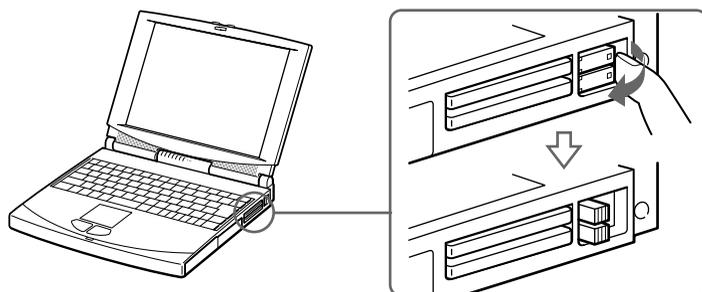
この章では、本機と電話回線やプリンターなどの周辺機器の接続のしかたや、メモリーの増設のしかたなどを説明します。

周辺機器を接続する

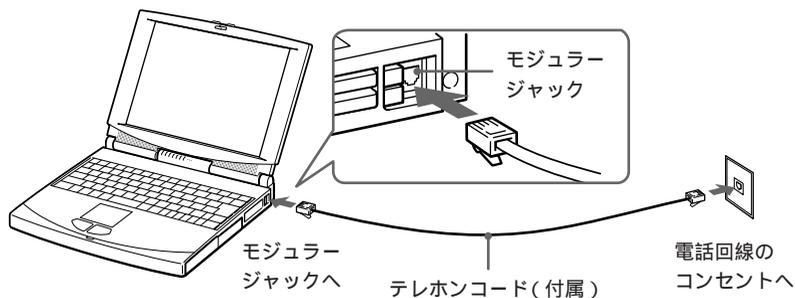
内蔵モデムを電話回線につなぐ

本機には、ファックスモデムが内蔵されています。付属のテレホンコードを使って本機と電話回線をつなぐと、パソコン通信やインターネットなどのデータ通信をしたり、ファックスを送受信できるようになります。

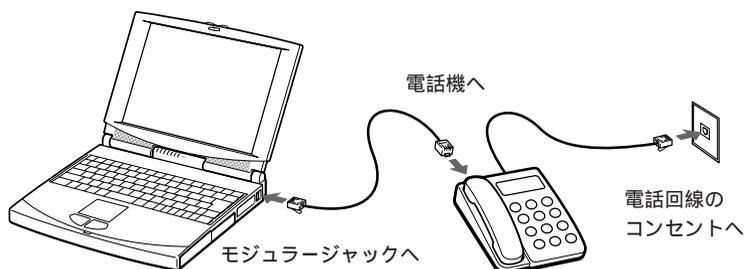
- 1 PCカードスロットのイジェクトボタンを起こす。



- 2 電話回線につなぐ。



モジュラージャックが2つある電話機をお使いのときは、下図のようにつなぎます。



ご注意

接続したあとに、使用する電話、ファックス、通信などのソフトウェアで設定をする必要があります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

電話回線についてのご注意

- 使用可能な回線は、一般電話回線とPBX内線です。

- PBX内線を職場内で使用しているとき

職場内で私設交換機を使用しているときは、モジュラー型電話回線差し込み口にモデムを直接つなぐと、うまく送受信できないことがあります。これは呼び出し信号の使われかたが、一般の電話回線と異なるためです。

PBX回線につなぐときは、PBX回線の電気的条件がNTTの電話回線と同じである必要があります。ファックスモデムが接続できるかどうかは、PBXメーカーまたはPBX保守業者にお問い合わせください。

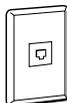
- 本機の内蔵モデムは、通信相手が応答しない場合、50秒で電話を切るように設定されています。30秒以内に電話を切るようにモデムの設定を変更することもできますが、この場合、交換機の接続遅延時間によっては接続できないことがあります。設定を変更する場合でも、30秒以上に設定するようおすすめします。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。ご自宅、外出先のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリ
---------	--------------------

モジュラー型	不要(そのままつなぐことができます)
--------	--------------------



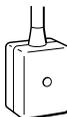
3ピンジャック型

テレホンモジュラーアダプターTL-30



直付け型ローゼット¹⁾

モジュラーローゼットTL-32CRなど



埋め込み型²⁾

テレホンモジュラージャックコンセントTL-31



¹⁾ 直付けタイプからモジュラージャックへの交換工事が必要です。局番なしの116番へお申し込みください。

²⁾ 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT(局番なしの116番)へご相談ください。

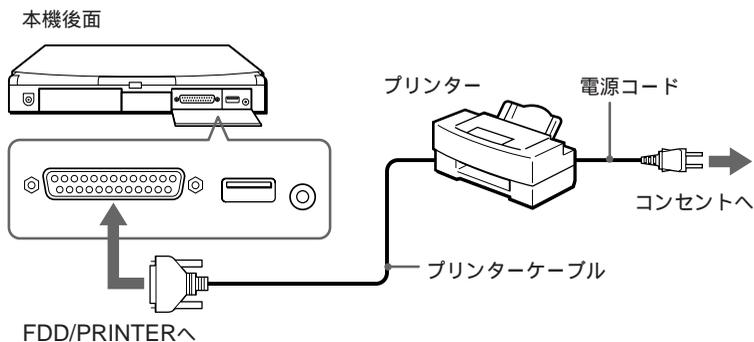
ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となるものがあります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

プリンターをつなぐ

Windows 95に対応しているプリンターを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。

プリンターに付属しているプリンターケーブルを使って本機につなぎます。



ご注意

- 本機とプリンターの電源を切ってから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 95に対応していないプリンターを本機につないでも、正常に動作しません。

プリンターを使用するには

プリンターを使用するには、次の準備が必要です。

- プリンターに付属のドライバーソフトを本機にインストールする。
詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- プリンターポートを設定する。
詳しくは、「パラレルポートの設定を変更する」(99ページ)をご覧ください。

外部ディスプレイをつなぐ

大きな画面で内容を確認したいときなどは、本機に外部ディスプレイやテレビを接続します。

ご注意

- 本機と接続する機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

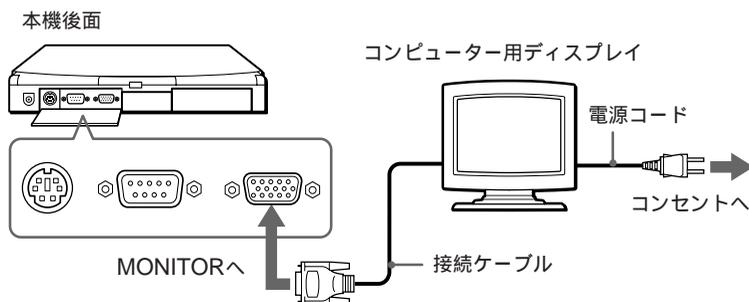


本機のディスプレイと接続した外部ディスプレイの表示を切り換えられます。詳しくは、「表示するディスプレイを選ぶ」(117ページ)をご覧ください。

コンピューター用ディスプレイをつなぐ

スピーカーなどが内蔵されていない通常のディスプレイにつなぐときは、ディスプレイの他に外部アクティブスピーカーとマイクを別につなぐことで、AV環境をよりお楽しみいただけます。

外部スピーカーなどの接続のしかたについては、「外部スピーカー/マイクをつなぐ」(78ページ)をご覧ください。

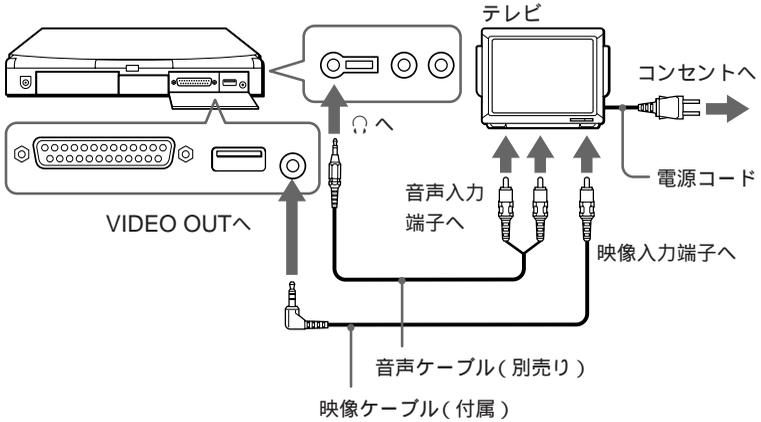


テレビをつなぐ

映像 / 音声接続ケーブルを使って、本機とテレビをつなぎます。接続してから、テレビの入力切り換えを「ビデオ」に合わせます。本機側の設定も必要です。詳しくは「表示するディスプレイを選ぶ」(117ページ)をご覧ください。

ご注意

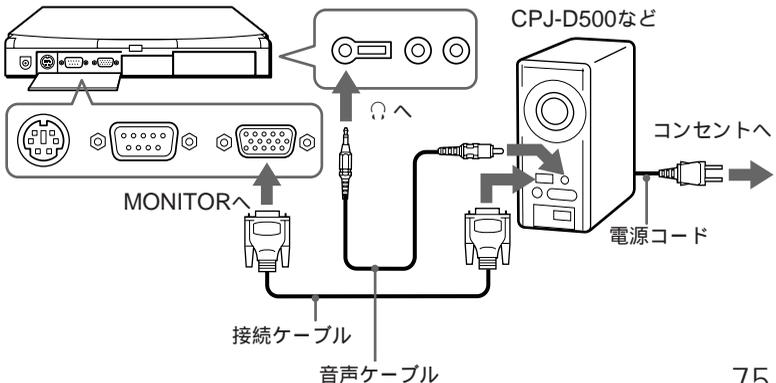
MONITORコネクターにつないだ接続ケーブルははずしてください。



周辺機器を接続する

液晶プロジェクターをつなぐ

ソニーCPJ-D500などの小型の液晶プロジェクターを使うと、プレゼンテーションをするときなどに便利です。接続のしかたは機器によって異なります。詳しくは、液晶プロジェクターの取扱説明書をご覧ください。



デジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラで撮影した画像を本機に取り込みます。ここではソニーデジタルスチルカメラDSC-F1/F2と、他の機種をお使いのときの一般的なご注意を説明します。

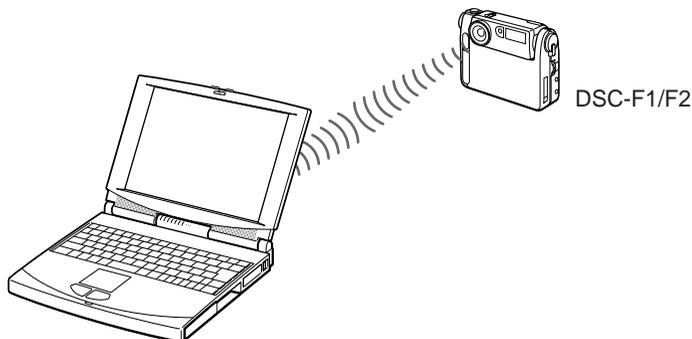
ご注意

接続のしかたや画像の取り込みかたは、デジタルスチルカメラによって異なります。詳しくはデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。

ソニーデジタルスチルカメラDSC-F1/F2を使う

設置する

DSC-F1/F2には赤外線通信機能があるので、ケーブル接続は必要ありません。本機とDSC-F1/F2を次のように置きます。



 本機の横に置いたままでも赤外線通信ができます。本機に付属の赤外線ポートアダプターを使うと、本機の横にDSC-F1/F2を置いたままでも赤外線通信ができます。

詳しくは、別紙の「ソニーデジタルスチルカメラ「サイバーショット」を使って赤外線通信をするときは」をご覧ください。



画像を取り込む

本機に付属しているPictureGear Liteソフトウェアを使って、画像を取り込みます。

操作方法について詳しくは、PictureGear Liteの取扱説明書をご覧ください。

他のデジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラから撮影した画像を取り込むには、一般的に次の方法があります。お使いの機種に合った方法で、画像を取り込んでください。

- デジタルスチルカメラと本機のSERIALコネクタ - をケーブルで接続する。接続するケーブルやソフトウェアは、お使いのデジタルスチルカメラ専用品をお使いください。
- PCカードに画像を記録するデジタルスチルカメラのときは、メモリーカードを本機のPCカードスロットに差し込む。
PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」(91ページ)をご覧ください。

ご注意

お使いの機種およびソフトウェアが本機に対応しているかどうかについては、デジタルスチルカメラおよびソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

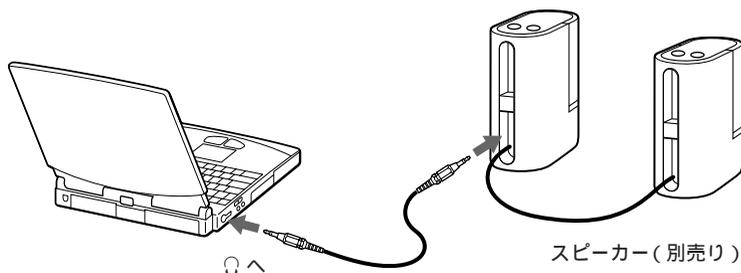
外部スピーカー / マイクをつなぐ

ご注意

- 接続ケーブルをつなぐときは、本機と接続する機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

外部スピーカーを接続する

スピーカーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

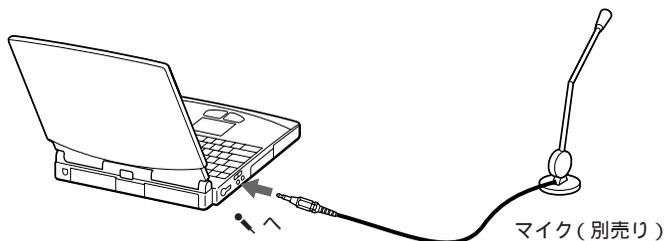


ご注意

- 電源を入れるときは、スピーカーの音量を最小にしてください。
- スピーカーの上にフロッピーディスクなどを置かないでください。スピーカーの磁気によりディスクに記録されているデータが破壊されることがあります。

マイクをつなぐ

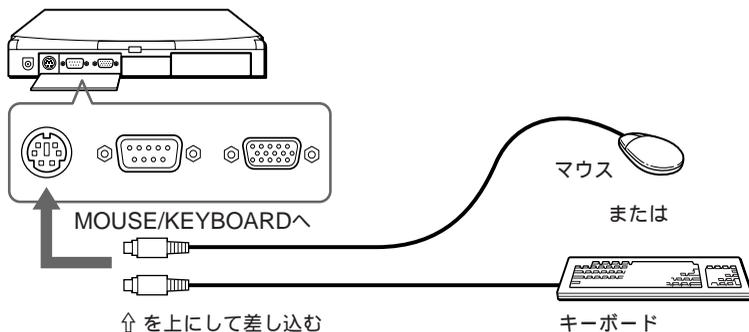
マイクの取扱説明書もあわせてご覧ください。



キーボード/マウスをつなぐ

PS/2準拠のフルサイズのキーボードやマウスを接続できます。

本機後面



フルサイズのキーボードとマウスを同時に使用するときは、キーボードをMOUSE/KEYBOARDコネクタに、マウスをSERIALコネクタにつなぎます。

ご注意

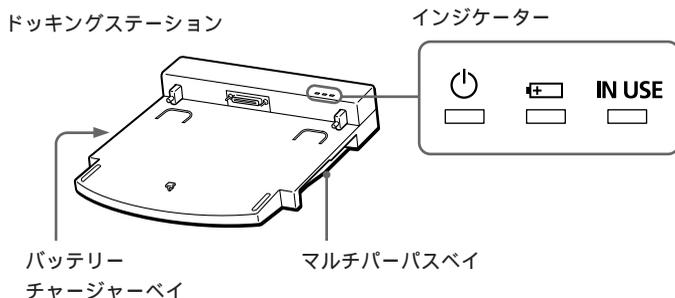
- 接続ケーブルをつなぐときは、本機と接続する機器の電源を切ってから接続してください。
- 本機の電源が入っている状態でPS/2デバイス(キーボードやマウス)を接続したり、はずしたりしないでください。誤動作の原因になります。
- マウスをSERIALコネクタにつなぐときは、そのマウスが「シリアルポート対応」のものかどうかを確認してからお使いください。シリアルポートに対応していないマウスを本機のSERIALコネクタにつないでも、動作しません。

ドッキングステーションに取り付けて使う

別売りのドッキングステーションを取り付けると、より多くの周辺機器を接続できます。AC電源コードやプリンターなどを常にドッキングステーションにつないでおけば、接続の手間ははぶけ便利です。

またドッキングステーションはDV静止画キャプチャーボードを内蔵しているため、ソニーデジタルビデオカメラレコーダーDCR-TRV7などのDV端子を持つ機器から、画像をデジタルのまま本機に取り込むこともできます。詳しくは付属の「DV静止画キャプチャー」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ドッキングステーションには、「パーソナルドッキングステーション」と「ネットワークドッキングステーション」の2種類があります。



□ パーソナルドッキングステーション

デジタルビデオカメラレコーダーをつなぐDV端子やUSBコネクター、DC INコネクターなど合計11種類のコネクターと、マルチパーパスベイ、充電専用のバッテリーチャージャーベイなどを装備しています。

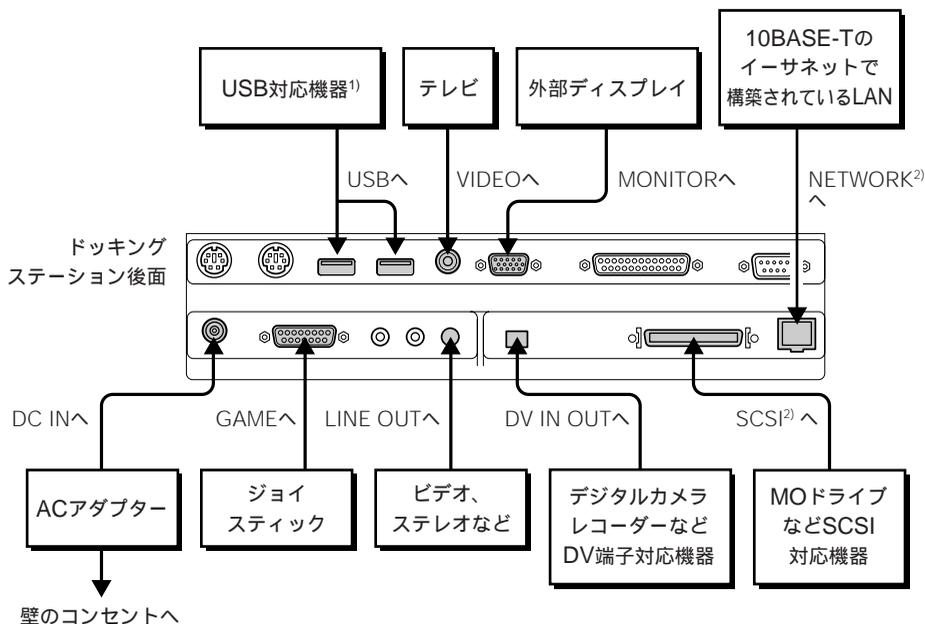
□ ネットワークドッキングステーション

パーソナルドッキングステーションのコネクターに加えて、NETWORKコネクター（10BASE-Tタイプのイーサネットコネクター）、SCSIコネクターを装備しています。

ご注意

- 本機をドッキングステーションに取り付けてご使用のときは、本機をサスペンドモードやSave To Diskモードにすることはできません。
- ドッキングステーションのマルチパーパスベイにCD-ROMドライブを取り付けた場合、音楽CDを再生しても本機の内蔵スピーカーから音はでません。

ドッキングステーションを使った主な接続例



周辺機器を接続する

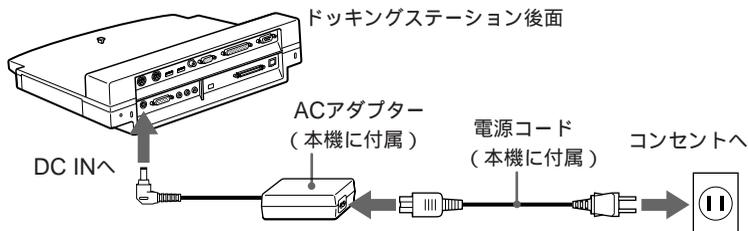
- 1) USB機器は現時点では本機との組み合わせでは使えません。将来の拡張用です。
- 2) ネットワークドッキングステーションのみに装備されたコネクタです。

ドッキングステーションを準備する

本機をドッキングステーションに取り付ける前に、次の準備が必要です。

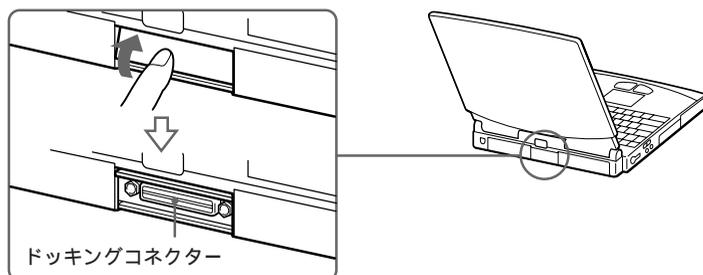
- 本機の電源を切り、本機に接続したすべての機器を取りはずす。
- ドッキングステーションをコンセントにつなぐ。

⏻ (電源) ランプが点灯します。

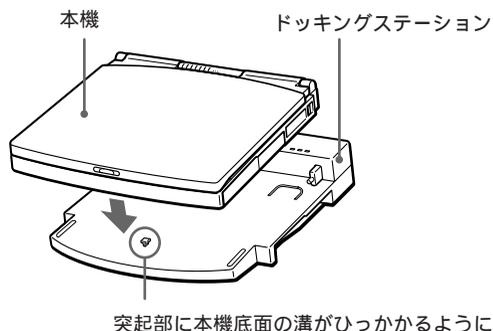


ドッキングステーションを取り付ける

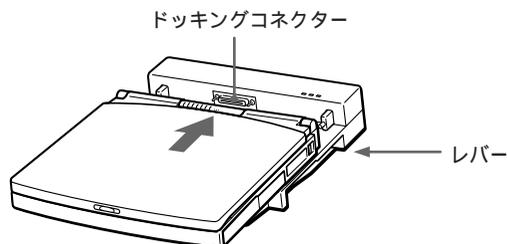
- 1 本機後面にあるドッキングコネクターのふたを開く。



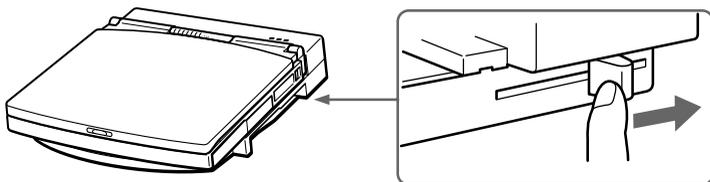
- 2 ドッキングステーションの幅に本機をあわせて垂直におろし、下図のように置く。
ドッキングステーションの突起部が、本機に正しく引っかかっていることを確認してください。



- 3 ドッキングステーション側面のレバーが手前にあるのを確認してから、本機をずらして、つきあたるまで押し込む。
本機後面とドッキングステーションのドッキングコネクタを接続します。



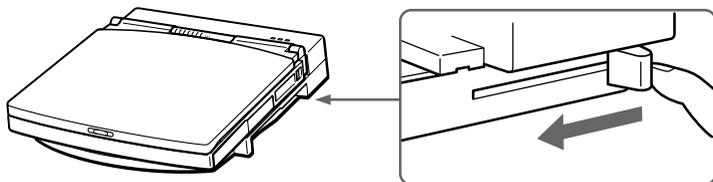
- 4** ドッキングステーション側面のレバーをLOCKの方向(奥)にずらす。
レバーが動かなくなるまでしっかりとずらします。



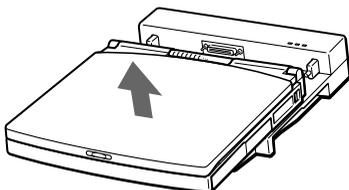
- 5** 本機の電源を入れる。
ドッキングステーションのIN USEインジケータが点灯し、本機がドッキングステーションに固定されます。

電源を切ってからドッキングステーションを取りはずすには

- 1** 本機および周辺機器の電源を切る。
2 ドッキングステーション側面のレバーをRELEASEの方向(手前)にずらす。



- 3** 本機がはずれたら、そのまま本機を上を持ち上げる。



本機をはずしたあとは、本機後面にあるドッキングコネクタのカバーを閉じます。

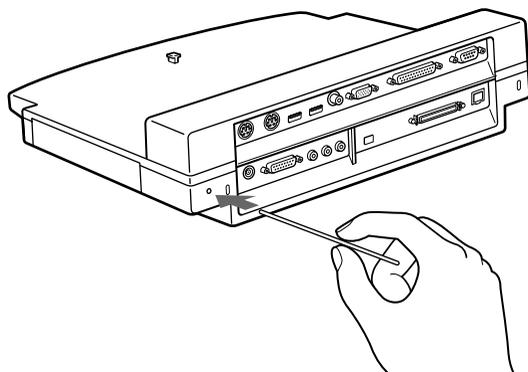
電源を入れたままでドッキングステーションを取りはずすには

- 1** [スタート]ボタンをクリックしてから、[取り出し]をクリックする。
または、Fnキーを押しながらF9キーを押します。
「ピッ」と音がして、ドッキングステーションを取りはずすための処理が始まります。
- 2** IN USEインジケーターが消灯したら、ドッキングステーション側面のレバーをRELEASEの方向(手前)にずらす。
- 3** 本機がはずれたら、そのまま本機を上を持ち上げる。
本機をはずしたあとは、本機後面にあるドッキングコネクタのカバーを閉じます。

IN USEインジケーターが消灯したことを確認してからドッキングステーションを取りはずしてください。

本機の処理中にドッキングステーションを取りはずすと、故障の原因となります。

手順1を正しく行っても、手順2でレバーが動かないときは太い針金のようなもの(大きいサイズのクリップでも代用可能)で、ドッキングステーション後面のマニュアル解除穴に押し込みます。



ドッキングステーションで充電する

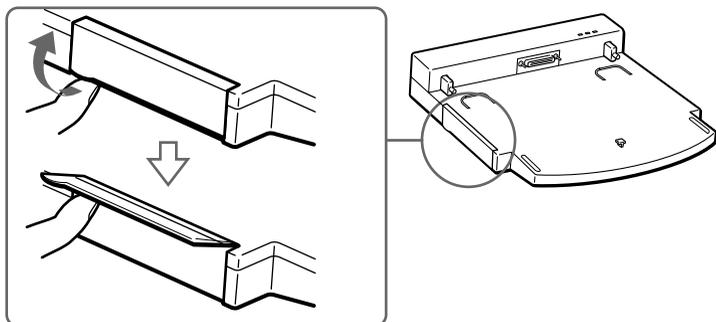
ドッキングステーション左側面には充電専用のバッテリーチャージャーベイがあります。

ご注意

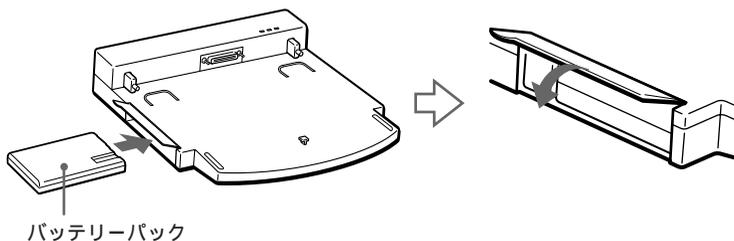
バッテリー充電のための電力供給は、パソコン本体のバッテリーベイが優先されま
す。お急ぎのときは、パソコン本体のバッテリーベイで充電してください。

バッテリーパックを取り付ける

- 1 バッテリーチャージャーベイのフタを開く。



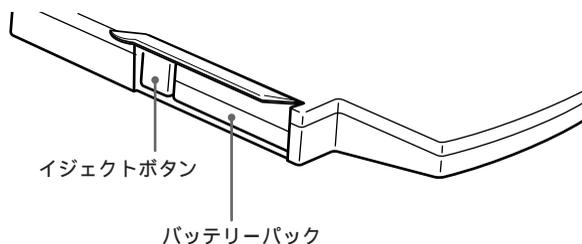
- 2 バッテリーを取り付ける。
バッテリーが奥まで入ったら、フタを閉めます。



バッテリーの充電が始まります。充電中はLEDインジケーターが点灯
します。

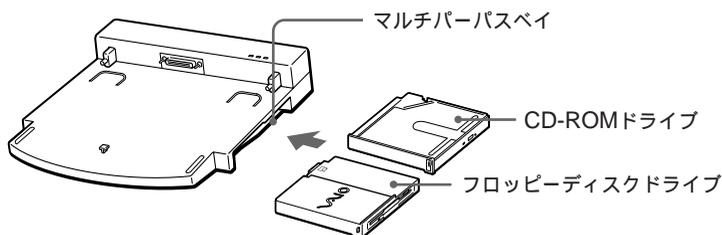
バッテリーを取りはずすには

バッテリーチャージャーベイのフタを開け、イジェクトボタンを押す。



ドッキングステーションにCD-ROMドライブ/フロッピーディスクドライブを取り付ける

本機に付属のCD-ROMドライブやフロッピーディスクドライブを、ドッキングステーションのマルチパーパスベイに取り付けて使えます。本機のマルチパーパスベイにはつねにフロッピーディスクドライブを取り付けておいて、CD-ROMドライブはつねにドッキングステーションに取り付けておくといった使いかたができ、便利です。



電源を入れると、各ドライブは自動的に認識されます。

ご注意

CD-ROMドライブやフロッピーディスクドライブを取り付けるときは、本機の電源を切ってから行ってください。

ドライブを取りはずすには

各ドライブ底面の取りはずしレバーを矢印の方向(奥)にずらし、ドライブを引き出します。

本体を拡張する

メモリーを増設する

メモリーを増設すると、データの処理速度や、複数のアプリケーションソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

メモリーを増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。

メモリーを増設についてのご相談やご質問は、ITテクニカルレスポンスセンターまでご連絡ください。

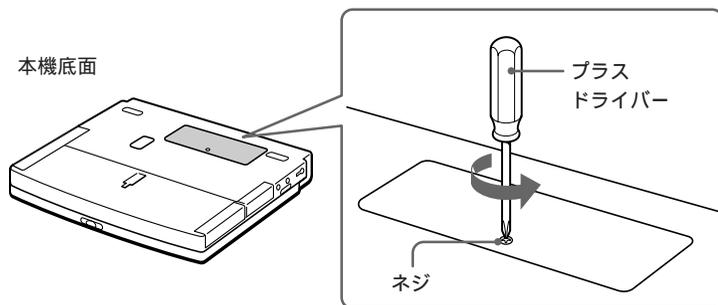
RAMボードを取り付ける

別売りのRAMボードを取り付けることにより、メモリーを増設します。本機にはRAMボードを取り付けるスロットが2つあります。64MバイトのRAMボードを2つ取り付けることにより、最大128Mバイトまでメモリーを増設できます(この場合、本機に標準で付属していたRAMボードは使えなくなります。RAMボードの取りはずしかたについて詳しくは、90ページをご覧ください)。

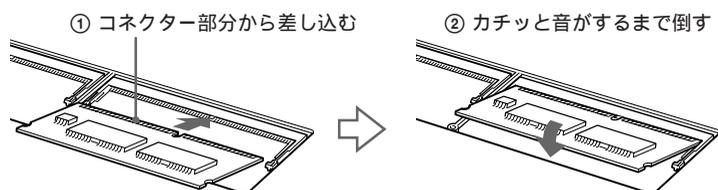
RAMボード取り扱い上のご注意

- ・ 静電気でRAMボードが破壊しないように、RAMボードを取り扱うときは、次のことをお守りください。
 - メモリーを増設するときは、静電気の起こりやすい場所(カーペットの上など)では作業しないようにしてください。
 - 静電気を体から逃がすため、本体の金属部に触れてから作業を始めてください。
 - RAMボードは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- ・ RAMボードを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

- 1 本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続を取りはずす。
バッテリーも取りはずしてください。
- 2 しばらくしてから本機を裏返し、底面のふたを開ける。
電源を切ったすぐあととは、本機の内部が熱くなっており、やけどの可能性あります。本機が冷えるのを待ってから行ってください。

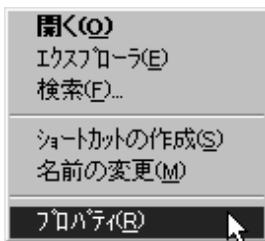


- 3 RAMボードを梱包から取り出す。
本体の金属部に触れて体の静電気を逃がしてから、RAMボードを静電気防止袋から取り出します。
- 4 RAMボードを取り付ける。
 - ① RAMボードのエッジコネクター部分を下にむけ、切り欠き部分をスロットの溝にあわせて、しっかりと差し込む。
 - ② カチッと音がするまで、矢印の方向にRAMボードを倒す。
RAMボードの両端が固定されます。



- 5 ふたを元に戻す。
ネジをしっかりと締めてください。
- 6 本機の電源を入れる。

- 7 [マイコンピュータ]を右クリックして、[プロパティ]をクリックする。



「システムのプロパティ」が表示されます。



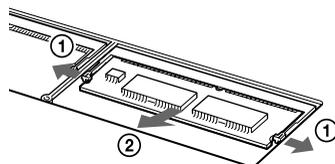
- 8 [パフォーマンス]タブをクリックして、「メモリ」の項目が増設後のメモリー容量になっていることを確認する。

メモリーの容量の表示が正しければ、メモリーの増設は完了しました。メモリーの容量が増えていないときは、本機の電源を切って、もう1度正しく増設の手順を繰り返してください。



RAMボードを取りはずす

- 1** 本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続を取りはずす。
バッテリーも取りはずしてください。
- 2** 本機を裏返し、底面のふたを開ける。
電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどの可能性があります。本機が冷えるのを待ってから行ってください。
- 3** RAMボードを取りはずす。
 - ① RAMボードを固定しているタブを、注意しながら同時に押し広げる。
 - ② RAMボードを矢印の方向に引き抜く。



- 4** ふたを元に戻す。
ネジをしっかりと締めてください。

PCカードを使う

本機には、PC CardタイプIとタイプII、タイプIIIに準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。タイプIとタイプIIのカードは同時に2枚挿入できます。また、本機のPCカードスロットはCard BusおよびZV (Zoomed Video) Portにも対応しています。

PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。PCカードは厚みによって、もっとも薄いタイプIからもっとも厚いタイプIIIまでの3種類に分けられます。

PCカードには以下のような種類があります。

メモリーカード

データをフラッシュメモリーに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。

SCSIカード

MOドライブやスキャナーなどのSCSIデバイスを接続できます。

ネットワークカード

イーサネットなどのネットワークに接続できます。

TA(ターミナルアダプター)カード

ISDN回線に接続できます。

ビデオカード

ビデオ機器を接続して、動画や静止画を取り込めます。

PCカードを取り付ける

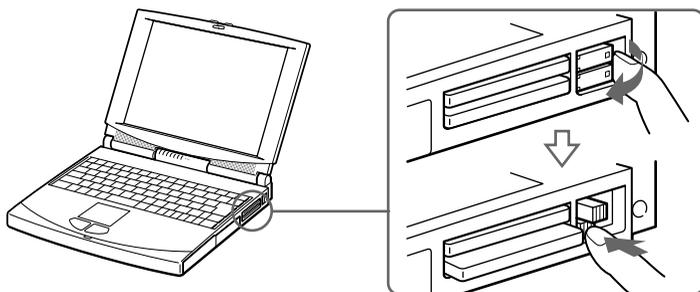
本機のPCカードスロットは2つあります。タイプIIIカードとZV Port対応カードは下部のスロットに取り付けてください。タイプIとタイプIIカードは、上下どちらのスロットにも取り付けられます。

PCカードを取り付けるときに電源を切る必要はありません。

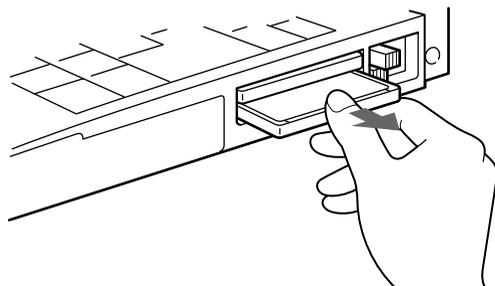
1 PCカードスロットプロテクターを取り出す。

スロットを保護するために、PCカードスロットプロテクターが装着されています。PCカードを挿入する前に、プロテクターを取り出す必要があります。

- ① イジェクトボタンを起こしてから、ボタンを押す。
プロテクターが出ます。



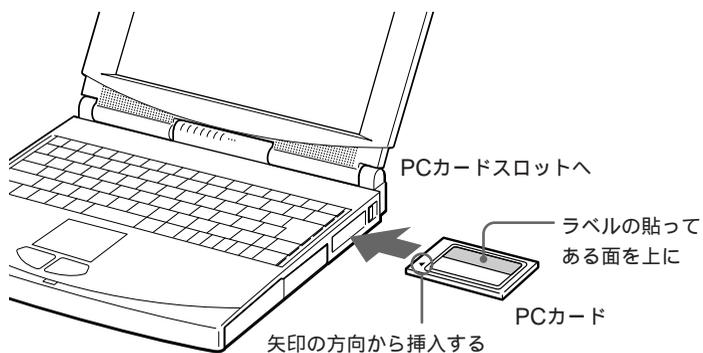
- ② プロテクターの端を持って、スロットから引き抜く。



タイプIIIカードをお使いになるときは、上下段ともプロテクターを取り出してください。

2 カードをスロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



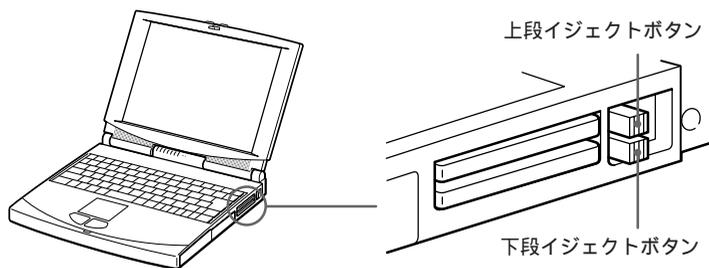
取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

PCカードを取り出す

ご注意

カードを取り出すときは、必ず以下の手順にしたがってください。誤った取り出し方をすると、システムが正常に動作しない可能性があります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [PCカード]をダブルクリックする。
- 3 リストから取り出したいPCカードを、次に[終了]ボタンを順にクリックする。
- 4 「このデバイスは安全に取り外せます。」と表示されたら[OK]ボタンをクリックする。
- 5 PCカードスロットのイジェクトボタンを押す。
カードがコネクターからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。



カードを引き抜いたあとは、スロットを保護するために、必ずPCカードスロットプロテクターを挿入してください。

セットアップ編

第 3 章

Sony Notebook SetupやPowerPanel、BatteryScopeといった付属のユーティリティソフトウェアを使ったり、Windowsの設定を変更することで、ご使用になる環境や好みに合わせた動作環境をつくられます。

Sony Notebook Setupを使う

本機の情報を確認する

本機の製造年月日などの製品情報や、メモリーの容量などのシステム情報を確認することができます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。



- 2 [システム情報]タブをクリックする。
本機の製品情報やハードウェア情報を確認できます。



- 確認が終わったら
[OK]をクリックします。

赤外線データ通信 (IrDA) の設定を変更する

赤外線通信をする相手の機器によっては、赤外線データ通信の設定を変更する必要があります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2** [赤外線通信] タブをクリックする。
赤外線データ通信の設定項目が表示されます。



- 3** 設定したい内容に合わせて、設定項目を変更する。
本機と通信する機器の通信モードに合わせて設定します。
通常は「IrDA 1.1方式」に設定します。

- 4** [OK] をクリックする。
手順3で通信モードを変更した場合は、設定を有効にするために本機を再起動する必要があります。表示されたダイアログボックスの[再起動]をクリックして、本機を再起動してください。

IrDAのモード設定が選べないときは

「使用デバイスの設定」画面で「赤外線通信ポート」がチェックされていません。
チェックしてから赤外線通信の設定をしてください。

詳しくは、「デバイスを一時的に使用できないように設定する」(106ページ)をご覧ください。

パラレルポートの設定を変更する

本機のFDD / PRINTERコネクタに付属のフロッピーディスクドライブとそれ以外のパラレル機器（プリンターなど）をつなぐときは、パラレルポートの設定を変更する必要があります。

また、パラレルポートのモードも変更できます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2 [プリンタ/FDD]タブをクリックする。
パラレルポートの設定項目が表示されます。



- 3 設定したい内容に合わせて、設定項目を変更する。

- FDD用として使用する

付属のフロッピーディスクドライブを外付けドライブとして、本機後面のFDD/PRINTERコネクタに接続して使うとき。

- プリンタ用として使用する

本機後面のFDD/PRINTERコネクタを、通常のパラレルポートとして使うとき。

接続する機器にあわせてパラレルポートのモードを選びます。

- Normal : 通常のパラレルポートとして使う。
- Bi-direction : 双方向のパラレルポートとして使う。
- ECP : ECP対応機器をつないで使う。

4 [OK]をクリックする。

手順3でパラレルポートのモードを変更した場合は、設定を有効にするために本機を再起動する必要があります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

パラレルポートのモード設定が選べないときは

「使用デバイスの設定」画面で「プリンタポート(LPT1)」がチェックされていません。チェックしてからパラレルポートの設定をしてください。

詳しくは、「デバイスを一時的に使用できないように設定する」(106ページ)をご覧ください。

起動ディスクを指定する

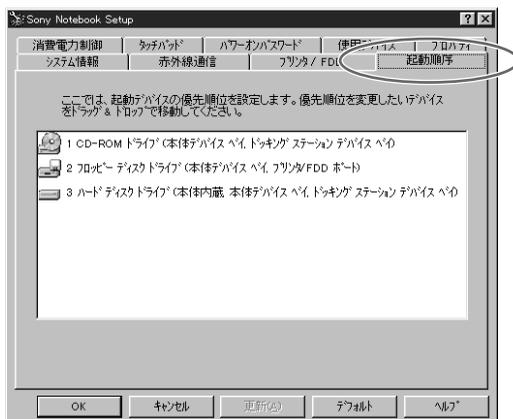
本機を起動するときの、起動ディスクを指定できます。フロッピーディスクから起動したり、ドッキングステーション内部に増設したハードディスクから起動したいときなどに便利です。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2 [起動順序]タブをクリックする。

「起動順序」が表示されます。



- 3 順序を変更したいドライブを上下にドラッグする。
リスト表示中の上にあるドライブから先に本機が起動します。

- 4 [OK]をクリックする。

次に電源をいれるときは、手順3で設定した順位の高いドライブから本機が起動します。

ディスプレイパネルを閉じたときのモードを設定する

ディスプレイパネルを閉じたときの、本機の動作モードを設定できます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2 [消費電力制御]タブをクリックする。

ディスプレイパネルを閉じたときのモード設定項目が表示されます。



- 3 設定したい内容に合わせて、設定項目を変更する。

- ・液晶の電源を切る

ディスプレイパネルを閉じると、液晶ディスプレイが消えます。

ハードディスクなどは動作状態のままなので、この状態で持ち運ばないようご注意ください。

- ・サスペンドモードに入る

ディスプレイパネルを閉じると、本機はサスペンドモードに入ります。詳しくは「省電力動作モードについて」(134ページ)をご覧ください。

- 4 [OK]をクリックする。

変更した設定が有効になります。

タッチパッドの感度を調節する

タッチパッドを使っていて、思ったようにポインターを動かさせないときは、タッチパッドの感度を調節してみてください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2 [タッチパッド]タブをクリックする。
タッチパッドの設定項目が表示されます。



- 3  をクリックする。
「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 4 変更したい設定項目を、好みの値に変更する。
- 5 「マウスのプロパティ」画面の[OK]をクリックする。
変更した設定が有効になります。

本機にマウスをつないでいるときは

本機のMOUSE/KEYBOARDコネクタにマウスをつないでいるときは、本機のタッチパッドを無効にすることもできます。

前ページの手順3で、「タッチパッドを使用しない」のラジオボタンをクリックしてから、[OK]をクリックします。

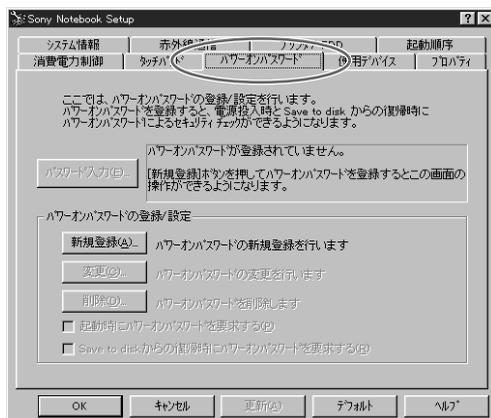
パスワードを登録する

パスワードを登録して、パスワードを知っているユーザーだけが本機を使えるようにできます。大切なデータを守りたいときなどに便利です。ここで登録したパスワードは、本機を起動してSONYのロゴマークが表示されたあとに入力します。

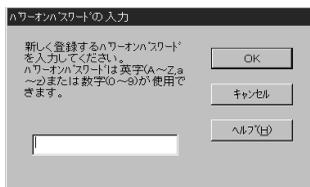
ご注意

パスワードを忘れると、本機を起動することができなくなります。パスワードは必ずメモを取るなどして、忘れないようにしてください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。
- 2 [パワーオンパスワード]タブをクリックする。
パスワードの設定項目が表示されます。



- 3 [新規登録]をクリックする。
- 4 [はい]をクリックする。
- 5 登録したいパスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
パスワードは半角の英数字7文字以内で入力します。1文字入力するごとに、*が表示されます。



- 6 手順5で入力したパスワードをもう1度入力してから、[OK]をクリックする。
- 7 [OK]をクリックする。
入力したパスワードが登録されます。

パスワードの登録をやめるときは

手順4で、[いいえ]をクリックします。

パスワードを変更する

- 1 「パスワードを登録する」の手順1と2を行う。
- 2 「パスワード入力」をクリックする。
パスワード入力画面が表示されます。変更前のパスワードを入力し、[OK]をクリックします。
- 3 [変更]をクリックする。
パスワード入力画面が表示されます。
- 4 登録したいパスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
- 5 手順4で入力したパスワードをもう1度入力してから、[OK]をクリックする。
パスワードが変更されます。
- 6 [OK]をクリックする。

パスワードを削除する

- 1 「パスワードを登録する」(104ページ)の手順1と2を行う。
- 2 「パスワード入力」をクリックする。
パスワード入力画面が表示されます。削除したいパスワードを入力し、[OK]をクリックします。
- 3 [削除]をクリックする。
確認画面が表示されます。
- 4 [はい]をクリックする。
パスワードが削除されます。
削除をやめるときは、[いいえ]をクリックします。
- 5 [OK]をクリックする。

デバイスを一時的に使用できないように設定する

別売りのハードウェアやソフトウェアを使用するときに、IRQ、DMAといったハードウェアリソースが足りなくなることがあります。この場合、本機の使用していないデバイスを使用できないように設定することで、使えるハードウェアリソースの割り当てを、一時的に変更できます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブック ユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2 [使用デバイス]タブをクリックする。
使用デバイスの設定項目が表示されます。



- 3 使用するデバイスのチェックボックスをクリックし、チェックする。
(初期設定ではすべてのデバイスがチェックされています。)

- 4 [OK]をクリックする。
チェックしたデバイスにリソースが割り当てられます。
設定を有効にするために本機を再起動する必要がある場合もあります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

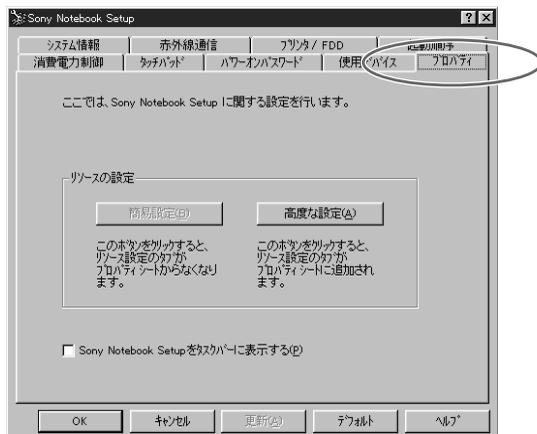
使用するデバイスごとに詳細な設定をする

Sony Notebook Setup の [簡易設定] と [高度な設定] を切り換えることで、使用するデバイスごとに IRQ や DMA といったリソースを割り当てられます。

- 1 [スタート] ボタンをクリックして [VAIO] にポインターを合わせ、[ノートブック ユーティリティ] から [Sony Notebook Setup] をクリックする。
Sony Notebook Setup が起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

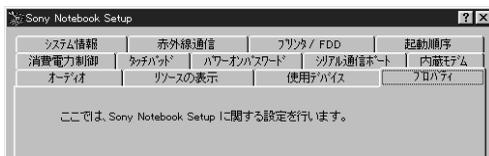
2 [プロパティ]タブをクリックする。

「プロパティ」が表示されます。



3 [高度な設定]をクリックする。

「シリアル通信ポート」と「内蔵モデム」、「オーディオ」、「リソースの表示」タブが新たに表示されます。



4 リソースを設定する。

設定したいデバイスのタブをクリックして、設定画面を表示させ、リソースの一覧から任意の値を選んでクリックします。

5 すべての設定が終わったら、[OK]をクリックする。

設定を有効にするために本機を再起動する必要があります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

工場出荷時の設定に戻すには

Sony Notebook Setup の[デフォルト]をクリックします。

なお、[デフォルト]をクリックしても、登録したパスワードは消去されません。

PowerPanelを使う

バッテリーの消費電力を節約する

バッテリーで本機を使用しているときは、本機の動作速度を下げたり、ハードディスクや液晶ディスプレイを自動的に停止させたりしてバッテリーの消耗を遅らせることができます(パワーマネジメント機能)。詳しくは「省電力動作モードについて」(134ページ)をご覧ください。

本機に付属している「PowerPanel」ソフトウェアを使うことで、使用状況に合わせた電力の節約をできるようになります。

本機を起動すると、PowerPanelは自動的に起動し、画面右側にパワーマネジメントツールバーが表示されます。



ポインターをボタンに合わせると、情報ボックスが表示されてボタンの機能を確認できます。

設定したいボタンをクリックすると、クリックしたボタンのパワーマネジメント機能が実行されます。



最高のパフォーマンス

消費電力を節約しつつ、できるだけ通常の動作状態を保つよう、自動的に調節します。



最大バッテリー寿命

バッテリーを最大限に長時間使用できるように動作状態を自動的に調節します。



カスタム設定

BIOSセットアップ画面で設定した動作状態になります。



パワーマネージメント オフ

パワーマネージメント機能を無効にします。



ACプロファイル

ACアダプターをつないで使用するときに、ここで設定した状態になります。ACアダプターをはずすと、バッテリーで使用していたときに選んでいた状態に戻ります。



スタンバイ

一時的にシステム全体の動作を停止し、スタンバイ状態になります。システムをもとの状態に戻すには、何れかのキーを押します。サスペンド状態よりも早く通常の状態に復帰できます。ちょっと席をはずすときなどに便利です。



サスペンド

現在の本機の状態をメインメモリーに記憶させ、CPUの電源を切ります。システムをもとの状態に戻すには、何れかのキーを押します。

翌日まで作業を中断するときなどに便利です。



Save To Disk

現在のシステムの状態をハードディスクに書き込んでから、自動的に本機の電源を切ります。本機の電源を入れると、Save To Disk前の状態に戻ります。

21ページの「電源を切るには」の手順を行って本機の電源を切る代わりにこの機能を使うと、次回電源を入れたときに短時間でもとの作業状態に復帰できます。2～3日本機を使わないときなどに便利です。



ビデオ スタンバイ

液晶ディスプレイの電源を切り、ビデオスタンバイ状態になります。何れかのキーを押すともとの状態に戻ります。



ハードディスク スタンバイ

ハードディスクモーターの回転を止め、スタンバイ状態になります。ハードディスクへのアクセスがあるともとの状態に戻ります。



モデム オン

内蔵モデムの電源を入れます。



モデム オフ

内蔵モデムの電源を切ります。

この状態で、Communication Centerなどのモデムを使用するソフトウェアを起動すると、エラーが発生します。[モデム オン]をクリックしてから、ソフトウェアを起動し直してください。



PCカード

PCカードウィンドウが表示されます。

使用環境に合わせて設定を変更したり、ボタンを追加したりすることもできます

初期設定で表示される13個のボタンの他にもさまざまな設定が用意されています。また、用意されている設定を好みに合わせて変更したり、新しい設定を作成して登録することもできます。

詳しくはPowerPanelのヘルプをご覧ください。

BatteryScopeを使う

バッテリーの残量を確認する

本機に取り付けたバッテリーの状態を、パーセント表示または時間表示で確認できます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[BatteryScope]をクリックする。

BatteryScopeが起動し、画面にBatteryScopeのアプリケーションバーが表示されます。



パーセント表示

バッテリーの残容量がパーセントで表示されます。

時間表示

バッテリーの予想使用可能時間が時間と分で表示されます。

バッテリーアイコン

バッテリーの状態



放電中



充電中



未使用

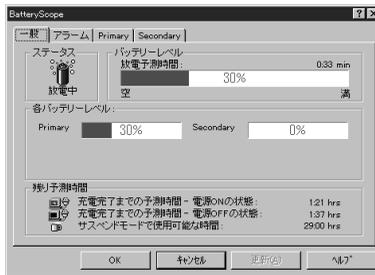


バッテリー未装着

アプリケーションバーの表示を変更したり、バッテリーの残量を知らせる警告を表示したりすることもできます
使用環境に合わせてアプリケーションバーの表示を変更したり、BatteryScopeソフトウェアの初期設定で用意されている警告表示や警告音を変更したりすることができます。
詳しくは、BatteryScopeのヘルプをご覧ください。

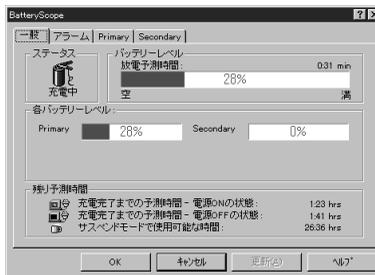
詳しい情報を見る

アプリケーションバーのアイコンなどの表示をクリックすると、「BatteryScope」が表示され、バッテリーについてより詳しい情報を見ることができます。



本機に取り付けたすべてのバッテリー情報を見るには
[一般] タブをクリックします。

バッテリーの予想使用可能時間や完全に充電されるまでの予測時間を確認
できます。



本機に取り付けた個々のバッテリー情報を見るには

本機の左側面に取り付けたバッテリーの情報を見るには[Primary]タブを、右側面に取り付けたバッテリーの情報を見るには[Secondary]タブをクリックします。

それぞれのバッテリーの放電予想時間や、バッテリーの製品情報などを確認できます。



Windowsの設定を変更する

ディスプレイの設定を変更する

本機の解像度は、標準では1024×768ドット(PCG-707)または800×600ドット(PCG-705)に設定されています。ディスプレイの解像度と色数の設定の変更をするには、以下の手順に従ってください。

Windows 95のヘルプもあわせてご覧ください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」が表示されます。



- 2 [画面]をダブルクリックする。
「画面のプロパティ」が表示されます。



- 3 [ディスプレイの詳細]タブをクリックする。



- 4 「カラーパレット」リストで色数を、「デスクトップ領域」のライダーで解像度を設定する。
- 5 [OK]をクリックする。
- 6 [OK]をクリックする。
設定が更新されます。

ご注意

設定によっては本機を再起動する必要があるものもあります。画面に表示される指示に従ってください。

🔍 色数について

- 手順4の「カラーパレット」の設定と実際に表示される色数は以下の通りです。
High Color (16ビット) → 65536色
True Color (24ビット) → 約1677万色
なお、True Colorに設定しても、液晶ディスプレイの発色数は約26万色(18ビット)になります。
- True Color (24ビット)に設定すると、画面の描画速度が少し遅くなります。

表示できる解像度と色数について

: 表示できる × : 表示できない

解像度	色数	PCG-707	PCG-705
1024×768ドット (XGA)	256色		× ¹⁾
	High Color		× ¹⁾
	True Color	×	×
800×600ドット (SVGA)、640×640 ドット(VGA)	256色		
	High Color		
	True Color		

¹⁾ 外部にコンピューターディスプレイをつないでいて、本機の液晶ディスプレイの表示を切っていれば表示できます。液晶ディスプレイを表示している状態では、仮想XGAモード(画面の一部を表示するモード)になります。

表示するディスプレイを選ぶ

本機はNeoMagicビデオコントローラーを使用しています。本機に外部ディスプレイなどをつないでいる場合には、どのディスプレイに表示するか設定できます。

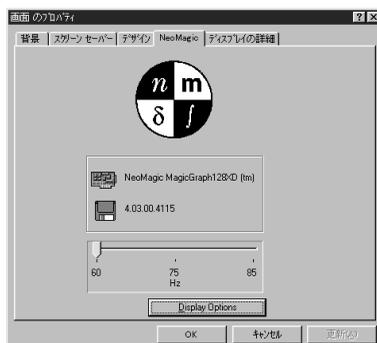
- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」が表示されます。



- 2 [画面]をダブルクリックする。
「画面のプロパティ」が表示されます。



- 3 [NeoMagic]タブをクリックする。
NeoMagicの設定項目が表示されます。



- 4 [Display Options]をクリックする。
「表示オプション」が表示されます。



5 「表示モード」から表示したいディスプレイの種類をクリックする。

設定	表示される機器
モニター	本機後面のMONITORコネクタにつないだコンピューター用の外部ディスプレイ
LCDパネル	本機の液晶ディスプレイ
同時	本機後面のMONITORコネクタにつないだコンピューター用外部ディスプレイと、本機の液晶ディスプレイ
TV	本機後面のVIDEO OUTコネクタにつないだテレビや、アナログ接続したプロジェクター

6 [OK]をクリックする。

「画面のプロパティ」に戻ります。

7 [OK]をクリックする。

選んだディスプレイが有効になります。

 Fnキーとファンクションキーを組み合わせで押しても、表示するディスプレイを切り換えられません。

詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」(151ページ)をご覧ください。

ご注意

- 本機の液晶ディスプレイと、本機のVIDEO OUTコネクタにつないだテレビなどは同時表示できません。
- 本機のMONITORコネクタにつないだコンピューター用ディスプレイと、VIDEO OUTコネクタにつないだテレビなどは同時表示できません。
- 手順5の「表示モード」で[モニター]を選んだときは、手順3の画面にあるスライダーを動かして、リフレッシュレートを調整できます。
- 本機のVIDEO OUTコネクタにつないだテレビに画像を表示させたいときは、MONITORコネクタにはなにもつながないでください。

テレビに表示するときは

「表示するディスプレイを選ぶ」(117ページ)の手順5で「TV」を選んだときは、表示するテレビの方式の設定や、表示位置の調節ができます。

方式を選ぶには

「表示するディスプレイを選ぶ」の手順5で「TV」を選んだあと、[TV オプション]で方式などを設定します。

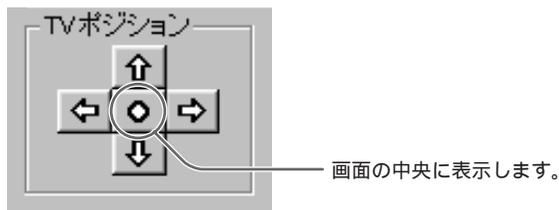
- イメージフィルター
チェックするとテレビ表示のちらつきを改善します。
- NTSC、PAL/SECAM
テレビの方式を選びます。日本国内のテレビはNTSC方式なので、通常のテレビにつなぐときは[NTSC]を選びます。PAL方式のテレビやビデオモニターにつなぐときは、[PAL/SECAM]を選びます。

ご注意

[PAL/SECAM]を選んでも、SECAM方式のテレビやビデオモニターには表示できません。

表示位置を設定するには

「表示するディスプレイを選ぶ」の手順5で「TV」を選んだあと、[TV ポジション]で表示位置を設定します。



矢印ボタンを押すと、矢印の方向に表示位置が移動します。

画面の背景を変更する

本機にあらかじめ記憶されているいくつかの壁紙を使って、画面の背景を変更できます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」が表示されます。



- 2 [画面]をダブルクリックする。
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 3 [背景]タブをクリックする。
背景の設定項目が表示されます。



- 4 「壁紙」リストから表示したい壁紙を選び、クリックする。
選んだ壁紙のサンプルが表示されます。



表示位置

全体 画面全体に壁紙が表示されます。

中央 画面の中央に壁紙が表示されます。

- 5 [OK]をクリックする。
選んだ壁紙が、画面に表示されます。

ウィンドウの枠の色を変更する

本機にあらかじめ記録されている色の組み合わせを使って、画面に表示されるウィンドウやメニューを好みの色に変更できます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせて、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 [画面]をダブルクリックする。
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 3 [デザイン]タブをクリックする。
デザインの設定項目が表示されます。



- 4 「配色」リストから色を選び、クリックする。
選んだ色のサンプルが表示されます。
- 5 [OK]をクリックする。
ウィンドウの色が変更されます。

その他

第 4 章

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 本体に手やひじをつくなどして力を加えないでください。本機の液晶ディスプレイはガラスでできています。力を加えると、ガラスが割れてしまいます。
- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 炎天下や窓をしめきった自動車内など、異常な高温になる場所には置かないでください。本機が変形し、故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れてください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。

結露について

結露とは本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときなどに、本機の表面や内部に水滴がつくことで、そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、電源を入れずに約1時間放置してください。

液晶ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイの表面を濡れたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじについて体重をかけないでください。
- 本機を戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術でつくられていますが、黒い点が現れたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。故障ではありません。(有効画素99.99%以上)

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

フロッピーディスクの取り扱いについて

ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

バックアップを取る

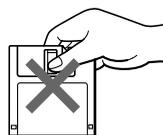
ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップをとることをおすすめします。アプリケーションプログラムはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについては詳しくは、Windows 95のヘルプをお読みください。

ハードディスクドライブを取りはずさないでください

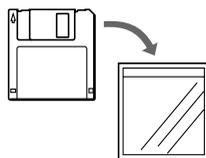
故障の原因になります。

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



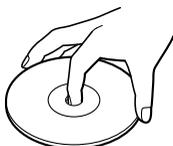
- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクはフロッピーディスクドライブから取り出して、必ずケースなどに入れて保管してください。



CD-ROMの取り扱いについて

CD-ROMに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 文字の書かれていない面（再生面）に触れないようにして持ちます。



- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気が多いところには保管しないでください。
- CD-ROMに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、CD-ROMは必ずケースなどに入れて保管してください。

ACアダプターについて

本機には、付属のACアダプター（極性統一形プラグ・EIAJ規格）をご使用ください。上記以外のACアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。



極性統一形プラグ

お手入れ

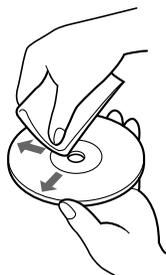
- 本機についたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れてきたと思ったら、こまめに拭くように心がけてください。

ご注意

- 濡れたもので液晶ディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。
化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書きに従ってください。

CD-ROMのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読みとりエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

リモコンプラグのお手入れについて

リモコンプラグが汚れていると雑音の原因になることがあります。常によい音でお聞きいただくために、リモコンの先端のプラグ部をときどき柔らかい布でからぶきしてください。

保証書と アフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3ヶ月間です。ユーザー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはITテクニカルレスポンスセンターへご連絡ください

ITテクニカルレスポンスセンターについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではノートブックコンピューターの修理は引取修理を行っています。

当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスク内のプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

交換部品の所有権について

修理によって交換された旧部品は、弊社の所有となりますので、あらかじめご了承ください。

部品の保有期間について

当社ではノートブック コンピューターの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：PCG-707またはPCG-705
- 製造番号：
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

コンピューターの基礎知識

ここでは、基本的なコンピューターの用語を説明します。

また、コンピューターウイルスやソフトウェアの不正コピー禁止についても説明します。

用語解説

CPU

Central Processing Unitの略で、中央演算処理装置のことです。パソコンの内部にあり、パソコンの頭脳にあたります。

メモリー

パソコンの記憶装置のことです。パソコンで作業した結果を一時的に蓄えます。

ハードディスク

メモリーが一時的に作業結果を蓄えておく記憶装置であるのに対して、ハードディスクは長期間、作業結果を保存します。パソコンで作成した文書の他にも、ワープロや表計算などのソフトウェアもハードディスクに保存されています。

ソフトウェア

ワープロ、表計算、データベース、ゲームなど、パソコンを使う上での具体的な機能を果たすものです。

キーボード

文字や数字を入力するための機器です。

タッチパッド

画面上の特定の場所を指し示し、指定するために使います。タッチパッドの上を指でなぞると、その動きに合わせて画面上の矢印(ポインター)も動きます。

液晶ディスプレイ

使用しているソフトウェアや作成している文書などを表示します。

モデム

パソコンに電話回線をつなぐために使用します。パソコンのデータを、電話回線でやりとりできるように信号を変換します。

コンピューターウイルスについて

コンピューターウイルスとは、コンピューターの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピューターウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。

コンピューターウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピューターにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピューターウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないもの書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピューターウイルスを侵入させないために

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書やプログラムなどのデータは必ずウイルスチェックをする。
- コンピューターウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がる場合がありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。

また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは禁じられています。ソフトウェアの使用許諾書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

省電力動作モードについて

本機はバッテリーでの使用可能時間を延ばすため、いくつかの省電力動作モードを持っています。モードごとに特長がありますので、使用状況に合わせて使い分けてください。

本機の動作モードについて

□ 通常モード(電源ランプ点灯)

通常の動作モードですが、液晶ディスプレイやモデムなど、特定のデバイスの電源だけを切って、消費電力を節約することもできます。

バッテリーの残量が6~7%になると、自動的にSave To Diskモードになります(工場出荷時の設定)。このときは、復帰しても作業中の文書が失われることがありますのでご注意ください。

□ スタンバイモード(電源ランプ点灯)

一時的にシステム全体の動作を停止します。ちょっと席をはずすようなときに便利です。

バッテリーの残量が6~7%になると、自動的にSave To Diskモードになります(工場出荷時の設定)。このときは、復帰しても作業中の文書が失われることがありますのでご注意ください。

- スタンバイモードにするには

Fnキーを押しながらSキーを押します。または、PowerPanelソフトウェアを使って設定します(109ページ)。

- 通常モードに戻すには

何れかのキーを押します。外部マウスやキーボードを操作しても復帰します。

□ サスペンドモード(電源ランプ点滅)

現在作業中の状態を保持したまま、CPUの電源を切ります。翌日に作業を再開するときなどに便利です。サスペンドモードでバッテリーの残量が6~7%未満になると、自動的にSave To Diskモードになります(工場出荷時の設定)。このときは、復帰しても作業中の文書が失われることがありますのでご注意ください。

- サスペンドモードにするには
Fnキーを押しながらEscキーを押します。電源/サスペンドスイッチを▷の方向に4秒以内ずらしたり、PowerPanelソフトウェアを使って設定することもできます(109ページ)。
- 通常モードに戻すには
本体のキーボードの何れかのキーを押します。

□ Save To Diskモード(電源ランプ消灯)

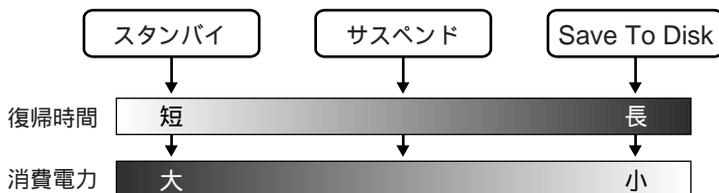
現在作業中の状態をハードディスクに保存して、本機の電源を切ります。2~3日使わないようなときに便利です。

- Save To Diskモードにするには
Fnキーを押しながらF12キーを押します。または、PowerPanelソフトウェアを使って設定します(109ページ)。
また、バッテリー残量が6~7%になると、自動的にSave To Diskモードになります(工場出荷時の設定)。このときは、復帰しても作業中の文書が失われることがありますのでご注意ください。
- 通常モードに戻すには
電源/サスペンドスイッチで本機の電源を入れ直します。電源を入れると、前回の作業中の状態に戻ります。

ご注意

Save To Diskモードから通常モードに戻すときに、電源/サスペンドスイッチを4秒以上▷の方向にずらしたままにすると、ハードディスクに保存していたSave To Diskモードになる前の作業状態がすべて消去されて通常と同じように起動します。

復帰時間と消費電力について



主な仕様

本体

プロセッサ

MMX®テクノロジー Pentium®プロセッサ-166 MHz(PCG-707) / 150 MHz(PCG-705)

チップセット

Mobile Triton II(430TX)PCIチップセット

2次キャッシュ

256Kバイト(パイプラインバーストSRAM)

メインメモリー

16Mバイトまたは32Mバイト(SDRAM)
最大128Mバイトまで拡張可能

メモリースロット

SODIMMスロット(2)
(通常、標準メモリーが1スロット使用)

グラフィックアクセラレーター

128ビット高速グラフィックアクセラレーター
NeoMagic Magic Graph 128XV(NM2160)

ビデオメモリー

2Mバイト(ビデオチップ内蔵)

液晶ディスプレイ表示モード

1,024 × 768ドット(65,536色、PCG-707のみ)
800 × 600ドット(約26万色)
640 × 480ドット(約26万色)

外部ディスプレイ表示モード

1,024 × 768ドット(65,536色)
800 × 600ドット(約1,600万色)
640 × 480ドット(約1,600万色)

フロッピーディスクドライブ

3.5インチ、1.44Mバイト / 1.2Mバイト / 720K
バイト

ハードディスクドライブ

2.1Gバイト

CD-ROMドライブ

最大14.5倍速(平均12倍速)、マルチセッション対応、12 / 8 cm対応トレイタイプ

外部接続端子

MONITORコネクター

アナログRGB、ミニD-SUB15ピン(1)

FDD/PRINTERコネクター

ECP、D-SUB25ピン(1)

MOUSE/KEYBOARDコネクター

PS / 2、ミニDIN6ピン(1)

SERIALコネクター

RS-232C、D-SUB9ピン(1)

USBコネクター¹⁾

USB4ピン(1)

VIDEO OUTコネクター

NTSC / PAL対応、ミニジャック(1)

MIC入力コネクター

モノラルミニジャック(1)

ライン入力コネクター

ステレオミニジャック(1)

ヘッドフォン出力コネクター

ステレオミニジャック、リモコン機能対応(1)

モデムコネクター

モジュラージャック(1)

赤外線ポート

IrDA 1.1、最大4Mbps(1)

¹⁾ 将来の拡張用です。

PCカードスロット

Type III × 1、Type I / II × 2、ZV portおよび
Cardbus対応(ZV portは1スロットのみ対応)

オーディオ機能

SoundBlasterPro互換(16ビットステレオ)、ス
テレオスピーカー

内蔵ファックスモデム

33,600bps(V.34) / 14,400bps(ファックス
時)、ボイス機能対応、ハンズフリー電話機能対応

ポインティングデバイス

タッチパッド

電源・その他

電源

ACアダプターまたはリチウムイオンバッテリー

バッテリー駆動時間

約1.5～3時間(1本)、約3～6時間(2本)

動作温度

5～35(温度勾配10/時以下)

動作湿度

20%～80%(結露のないこと)

保存温度

-20～60(温度勾配10/時以下)

保存湿度

20%～90%(結露のないこと)

外形寸法

約297×38×236 mm(幅/高さ/奥行き)

質量

約2.4 kg(バッテリー1本装着時)

ACアダプター

電源

AC 100～240 V、50/60 Hz

消費電力

最大80 W

出力電圧・電流

最大19.5 V、3.0 A

動作温度

5～35(温度勾配10/時以下)

動作湿度

20%～80%(結露のないこと)

保存温度

-20～60(温度勾配10/時以下)

保存湿度

20%～90%(結露のないこと)

外形寸法

約66×33×146 mm(幅/高さ/奥行き)

質量

約390 g

バッテリーパック

出力電圧・容量

14.4 V、2400 mAh

動作温度

5～35(温度勾配10/時以下)

動作湿度

20%～80%(結露のないこと)

保存温度

-20～60(温度勾配10/時以下)

保存湿度

20%～90%(結露のないこと)

外形寸法

約77×19×141 mm(幅/高さ/奥行き)

質量

約340 g

付属品・別売り品

付属品

「付属品を確認してください」をご覧ください。

別売り品

バッテリーパック PCGA-BP7

ドッキングステーション

ネットワークドッキングステーション
PCGA-DB7

パーソナルドッキングステーション
PCGA-DH7

メモリーモジュール

16Mバイト増設メモリーモジュール
PCGA-MM716

32Mバイト増設メモリーモジュール
PCGA-MM732

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

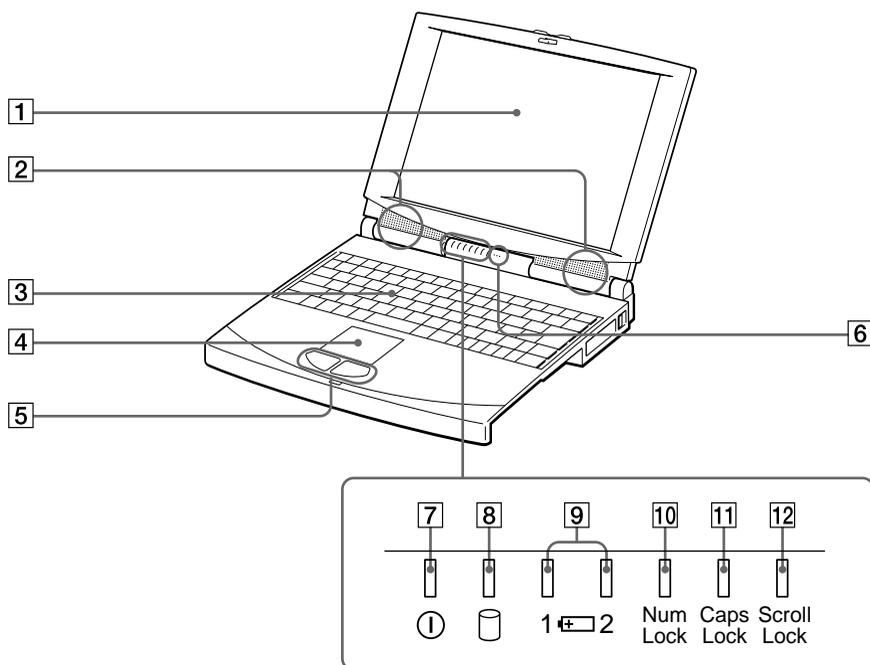
高調波電流規制について

この装置の本体およびディスプレイは、高調波ガイドライン適合品です。

その他

各部のなまえ

詳しい説明は、()内のページをご覧ください。



① 液晶ディスプレイ(20、126ページ)

② 内蔵スピーカー(56、151ページ)

③ キーボード(26、150ページ)

④ タッチパッド(24、103ページ)

⑤ 左/右ボタン(24、103ページ)

⑥ 内蔵マイク(56ページ)

⑦ 電源ランプ(21ページ)

⑧ ハードディスクランプ

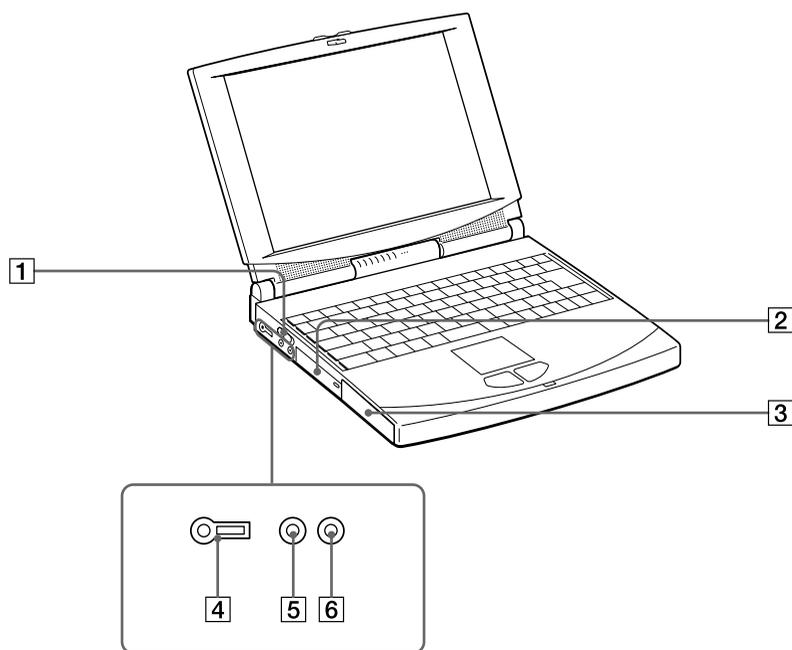
⑨ バッテリー1/2ランプ(45ページ)

⑩ Num Lockランプ(147ページ)

⑪ Caps Lockランプ

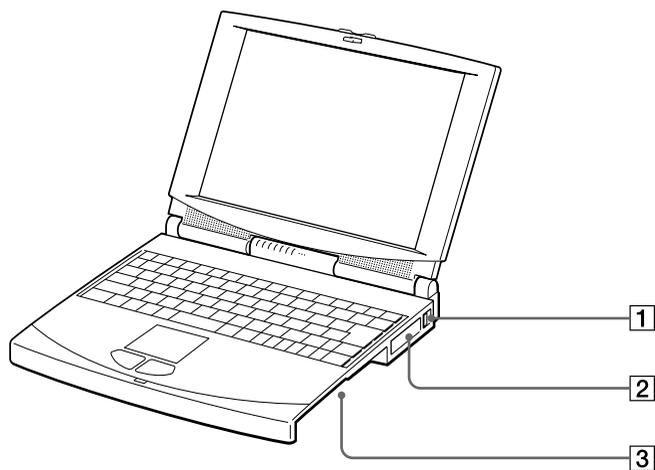
⑫ Scroll Lockランプ

本機左側面



- 1 電源/サスペンドスイッチ
(21ページ)
- 2 内蔵ハードディスク
- 3 バッテリーベイ(46ページ)
- 4 ♪(ヘッドホン)コネクター
(65、78ページ)
- 5 🎤(マイク)コネクター
(78ページ)
- 6 ⇄(LINE IN)コネクター

本機右側面

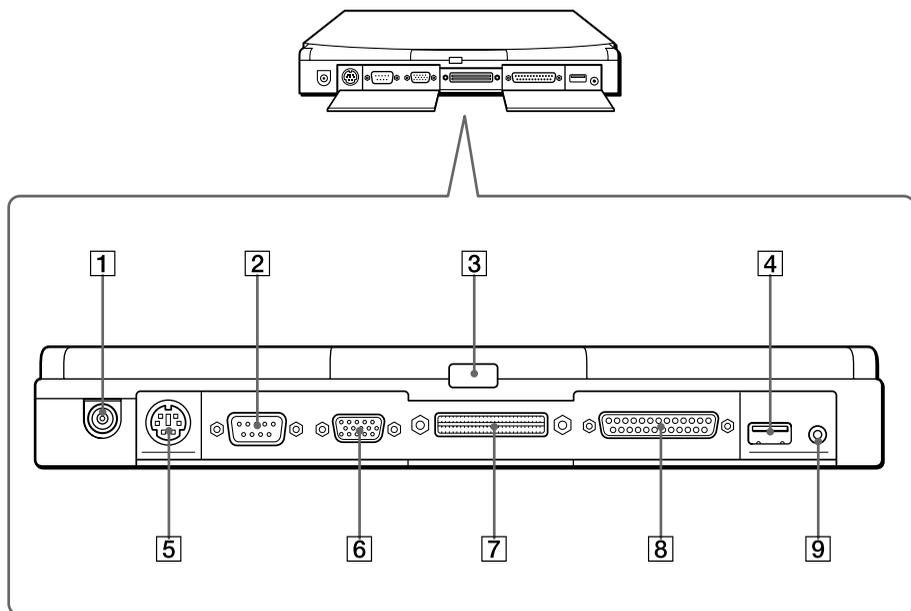


① モジュラージャック (70ページ)

② PCカードスロット (92ページ)

③ マルチパーパスベイ
(37、41ページ)

本機後面



① DC INコネクター(20ページ)

② SERIALコネクター
(77、79ページ)

③ 赤外線ポート(60ページ)

④ USBコネクター

⑤ MOUSE/KEYBOARD
コネクター(79ページ)

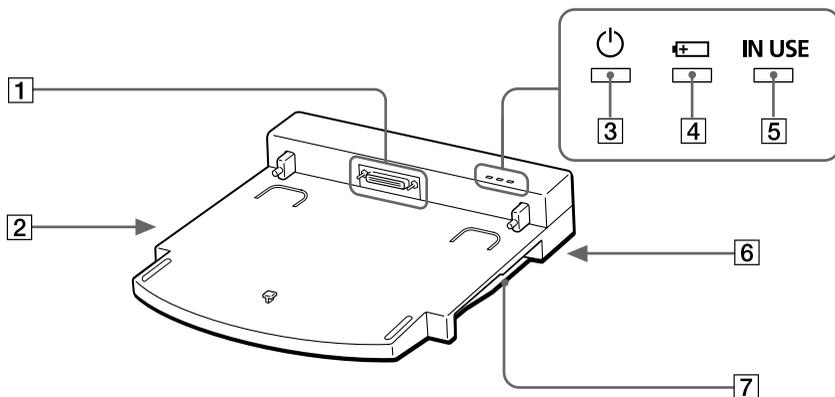
⑥ MONITORコネクター
(74、75ページ)

⑦ ドッキングコネクター(82ページ)

⑧ FDD/PRINTER
コネクター(36、73ページ)

⑨ VIDEO OUTコネクター
(75ページ)

ドッキングステーション



1 ドッキングコネクタ(82ページ)

2 バッテリーチャージャーベイ
(85ページ)

3 電源ランプ(80、81ページ)

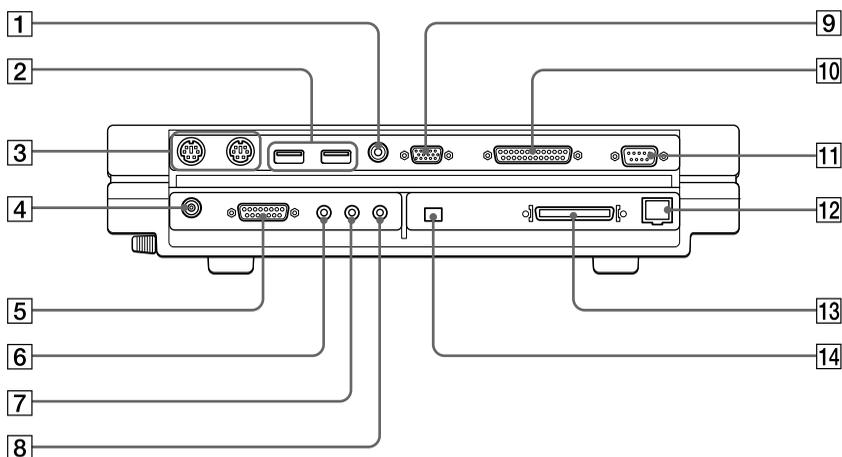
4 バッテリーインジケータ
(80ページ)

5 IN USEインジケータ
(80、83ページ)

6 レバー(82ページ)

7 マルチパーパスベイ(86ページ)

ドッキングステーション後面



1 ⇄ VIDEOコネクター (81ページ)

2 ♪ USBコネクター (81ページ)

3 Ⓜ / ⌨ MOUSE/KEYBOARD
コネクター (79ページ)

4 DC INコネクター (81ページ)

5 Ⓜ GAMEコネクター (81ページ)

6 🎤 MICコネクター (78ページ)

7 ⇄ LINE INコネクター

8 ⇄ LINE OUTコネクター
(81ページ)

9 □ MONITORコネクター (74、
75、81ページ)

10 🖨️ PRINTERコネクター
(73ページ)

11 IO/IO SERIALコネクター (77、79
ページ)

12 NETWORKコネクター (81ペー
ジ) (ネットワークドッキング
ステーションのみ)

13 SCSIコネクター (81ページ)
(ネットワークドッキングステ
ーションのみ)

14 DV IN/OUTコネクター (DV端子)
(81ページ)

故障かな？と思ったら

ITテクニカルレスポンスセンターにご相談になる前にもう1度チェックしてみてください。それでも具合が悪いときはお買い上げ店またはITテクニカルレスポンスセンターにご相談ください。

ご注意

接続し直すときは、かならず「電源を入れる」(20ページ)の手順にしたがい、いったん電源を切ってください。

症状	原因 / 対策
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none">• 本機とACアダプター、ACアダプターと電源コード、電源コードとコンセントがそれぞれしっかりつながっているか確認する。• バッテリーが正しく装着されているか確認する。• バッテリーが放電しきっている。バッテリーを充電し、電源を入れ直す。• 結露している。1時間くらい待って電源を入れ直す。
液晶ディスプレイに何も表示されない。	<ul style="list-style-type: none">• 本機とACアダプター、ACアダプターと電源コード、電源コードとコンセントがそれぞれしっかり接続されているか確認する。• バッテリーパックが正しく装着されているか確認する。• ビデオスタンバイモードになっている。何れかのキーを押す。• 外部モニターに表示が切り換えられている。Fnキーを押しながら、F7キーを何回か押す。• 外部のテレビに表示が切り換えられている。Fnキーを押しながら、F8キーを押す。
外部ディスプレイの表示サイズ、表示位置がおかしい。	ディスプレイの調整つまみで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
テレビの画面が異常に暗い。	MONITORコネクタに接続ケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずす。

症状	原因 / 対策
CD-ROMが再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> • CD-ROMドライブが正しく装着されているか確認する。(41ページ) • CD-ROMが正しくトレイに置かれているか確認する。(42ページ) • CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。 • 結露している。1時間くらい待って電源を入れ直してから、もう1度再生してみる。
CD-ROMの再生時、音がとぎれる。	<ul style="list-style-type: none"> • CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。 • 再生用のパuffersの量を調整する。詳しくは、Windows 95のヘルプをご覧ください。
CD-ROMが取り出せない。	43ページをご覧ください。
フロッピーディスクが取り出せない。	38ページをご覧ください。
画面上のポインターが動かない。	<ul style="list-style-type: none"> • キーを押して[スタート]メニューを表示させ、キーまたはキーを押して[Windowsの終了]を選び、Enterキーを押す。 • 上記の操作で電源が切れないときは、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、本機を再起動する。 • 上記の操作でも何も起こらないときは、電源/サスペンドスイッチを4秒以上▶の方向にずらして電源を切る。 • CD-ROMを再生しているときなどに、ポインターが動かなくなってしまった場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、CD-ROMの再生を強制的に終わらせ、本機を再起動する。
電源を入れた後、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち上げられない。	<p>フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押して、取り出す。</p> <p>その後、キーボードのいずれかのキーを押す。</p>

症状	原因 / 対策
「マイコンピュータ」から フロッピーディスクを 選んで初期化しようとした ができない。	<ul style="list-style-type: none"> • フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(39ページ) • フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。 • 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。
「ディスクがいっぱいです」 というメッセージが 表示され、ファイルなどを フロッピーディスクに 保存できない。	フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直し。
「書き込み禁止」という メッセージが表示された。	フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(39ページ)
スピーカーから 音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> • 本機の内蔵スピーカーが「切」になっている。Fnキーを押しながら、F3キーを押す。 • 本機の内蔵スピーカーの音量が最小になっている。Fnキーを押しながら、F4キーを押したあと、または キーを押して音量を上げる。(151ページ) • 外部スピーカーをお使いの場合は、本機とスピーカーが正しく接続されているか確認する。 • 外部スピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。 • 〇コネクターにケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずす。 • ドッキングステーションのマルチパーパスベイにCD-ROMドライブを取り付けた場合、音楽CDを再生しても本機の内蔵スピーカーから音はでません。
Fnキーを押しながら F3キーを押すと 「Sound Disable」と 表示される。	「システムのプロパティ」画面の「デバイスマネージャ」タブをクリックしてから、サウンドデバイスを使用できるように設定する。

症状	原因 / 対策
日本語が入力できない。	「文字を入力する」(28ページ)をご覧ください。
アルファベットのかわりに数字が入力される。	Num Lockキーを押して、Num Lockランプを消灯させる。
入力した文字が表示されない。	文字を入力したいアプリケーションソフトウェアのウィンドウが前面に出ていない。(画面上では薄い色のウィンドウになります。)ウィンドウのどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のアプリケーションソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。
URLで使われる半角の「~」が入力できない。	MS-IME97ツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び、Shiftキーを押しながら「^」を押す。 MS-IME97ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」(28ページ)をご覧ください。
全角の「~」が入力できない。	MS-IME97ツールバーで「全角ひらがな」を選んで、ひらがなで「から」と入力し、「~」が選ばれるまでスペースキーを押す。 MS-IME97ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」(28ページ)をご覧ください。
指がタッチパッドの端まできてしまい、これ以上動かせない。	指をいったんタッチパッドからはなし、中央に戻す。
ハードディスクから起動できない。	フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。
誤ってハードディスクを初期化してしまった。	リカバリCDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリCDで本機を再セットアップする」(148ページ)をご覧ください。
画面上のすべてのものが動かなくなりました。	CtrlキーとAltキー、Deleteキーを同時に押す。
電源が切れない。	電源/サスペンドスイッチを4秒以上▷の方向にずらす。
PCカードが使えない。	<ul style="list-style-type: none"> Windows対応でないPCカードは使えません。 IRQが足りない。Sony Notebook Setupで、現在使用していないデバイスを一時的に使用できないようにする。(106ページ)

リカバリーCDで本機を再セットアップする

ここでは、付属のProduct Recovery CD-ROM(以降、リカバリーCDと略します)を使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリーCDとは

リカバリーCDには、出荷時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、システムファイルを消してしまった場合には、リカバリーCDを使ってハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すことができます。

リカバリーCDを使うと、次のことができます

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクを初期化せずに、すべてのファイルを復元する。

ご注意

- 付属のリカバリーCDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- リカバリーCDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや、作成したデータを復元することはできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- ハードディスクを初期化した場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。また、ハードディスクを初期化しない場合でも、ハードディスク上のファイルが保存されることを保証するものではありません。再セットアップを行う前に、大切なデータは必ずフロッピーディスクに保存するなどして、バックアップをとっておいてください。
- ハードディスクを初期化せずにすべてのファイルを復元した場合、システムが正常に動作しないことがあります。このような場合は、もう1度再セットアップを行って、ハードディスクを初期化してから、すべてのファイルを復元してください。

準備する

- 1 CD-ROMドライブを本機に取り付ける。
詳しくは、「CD-ROMを使う」(41ページ)をご覧ください。
本機をドッキングステーションに装着しているときは、ドッキングステーションを取りはずします。
- 2 本機をACアダプターにつなぎ、AC電源を接続する。

再セットアップする

以下の手順を行います。

- 1 付属のリカバリーCDをCD-ROMドライブに入れてから、電源/サスペンドスイッチを4秒以上▷の方向にずらし、本機の電源を切る。
- 2 F2キーを押しながら、電源を入れる。
BIOSセットアップ画面が表示されるまで、F2キーを押し続けてください。
- 3 Escキーを押す。
- 4 または キーで[Get Default Values]を選び、Enterキーを押す。
- 5 「Default values have been loaded」が表示されたら、Enterキーを押す。
- 6 Escキーを押してから、Enterキーを押す。
- 7 「Changes have been saved」が表示されたら、Enterキーを押す。
リカバリーCDから本機が再起動します。

キーボードショートカット

Windowsキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例：Windowsキーを押しながらFキーを押す。→  +F

組み合わせ	機能
 +F1	Windowsのヘルプを表示します。
 +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
 +E	エクスプローラー ¹⁾ を表示します。
 +F	「ファイルやフォルダ」の検索ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[検索]を選んだときと同じです。
 +Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の検索ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[検索]を選んだときと同じです。
 +M	表示されているすべてのウィンドウを最小化します。
Shift+  +M	最小化されているすべてのウィンドウを元のサイズに戻します。
 +R	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行...]を選んだときと同じです。
 +Fn+Insert ²⁾	「システムのプロパティ」ウィンドウを表示します。 「コントロールパネル」の[システム]アイコンをダブルクリックしたときと同じです。

¹⁾ コンピューターの内容(ファイルやフォルダ)をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピューターのどこに保存されているか、一目で確認できます。

²⁾ 本機だけの操作です。他機で操作する場合は、 +Pauseを押します。

Fnキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例：Fnキーを押しながらEsc(エスケープ)キーを押す。→ Fn +  (Esc)

組み合わせ	機能
Fn+  (Esc)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブへの電源供給を停止して、使用電力を削減します。CPUへの電源供給も停止します。(サスペンドモード)
Fn+  (F2)	使用電源の状況を表示します。 例)  AC電源で使用  バッテリーを充電中
Fn+  (F3)	本機の内蔵スピーカーの音声を入/切します。
Fn+  (F4)	本機の内蔵スピーカーの音量が調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ音量表示が表示されます。このときに または キーを押すと大きくなり、 または キーを押すと小さくなります。(64段階で調節できます)。
Fn+  (F5)	液晶ディスプレイの明るさを調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ明るさ表示が表示されます。このときに または キーを押すと明るい画像になり、 または キーを押すと暗い画像になります。(9段階で調節できます)。
Fn+  (F6)	本機では動きません。
Fn+  /  (F7)	MONITORコネクタに接続したコンピューター用ディスプレイと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えます。 液晶ディスプレイのみ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイ同時表示 外部ディスプレイのみ 液晶ディスプレイのみ ...
Fn+  /  (F8)	VIDEO OUTコネクタに接続したテレビなどの外部モニターと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えます。 液晶ディスプレイのみ 外部モニターのみ 液晶ディスプレイのみ ...
Fn+  (F9)	ドッキングステーションに装着しているとき、電源の入った状態で取り外しできるようにします。
Fn+  (F12)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブだけでなく、CPUやRAMへの電源供給も停止します。使用環境はハードディスクに書き込まれるので、復帰後もそのまま作業できます。(Save To Diskモード)

組み合わせ	機能
Fn+E	本体のマルチバースペイにCD-ROMドライブを取り付けているときは、CD-ROMをイジェクトします。ドッキングステーションにCD-ROMドライブを取り付けているときは、働きません。
Fn+F	液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイの表示文字を拡大 / 縮小することができます。
Fn+D	液晶ディスプレイへの電源を切り、ビデオスタンバイ状態になります。何れかのキーを押すともとの状態に戻ります。
Fn+S	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブへの電源供給を停止して、使用電力を削減します。ただし、CPUへの電源供給は停止しないため、サスペンドモード (Fn+Esc) よりも早く通常の動作状態に復帰できます。(スタンバイモード)

索引

五十音順

ア

- インストール 15
- インターネット
 - インターネットとは 49
 - インターネットを楽しむ 50
- ウェイトセーバー 47
- 液晶ディスプレイ 20、126、132、138
- 液晶プロジェクター
 - 液晶プロジェクターをつなぐ 75
- 音楽CD
 - CDを聞く 64
 - CDを再生する 64
- オンラインヘルプ 15

カ

- 外部スピーカー
 - 外部スピーカーをつなぐ 78
- 外部ディスプレイ
 - 外部ディスプレイをつなぐ 74
- 外部マイク
 - 外部マイクをつなぐ 78
- 画面の背景 121
- キーボード 131
 - キーボードショートカット 150
 - キーボードを使う 26
 - キーボードをつなぐ 79
- 起動ディスク
 - 起動ディスクを指定する 101
- クリック
 - ダブルクリック 25
 - 右クリック 24、25
- 結露 126
- コンピューターウイルス 132

サ

- 再起動 23
- サイバershott
 - サイバershottから画像を取り込む 12、76
- サスペンドモード 22、65、110、134

- 省電力動作モード 134
 - サスペンドモード 22、65、110、134
 - スタンバイモード 110、134
 - Save To Diskモード 22、110、135
- シリアルケーブル 62
- スタンバイモード 110、134
- スピーカー
 - 内蔵スピーカー 56、138、151
 - 外部スピーカーをつなぐ 78
- 赤外線
 - 赤外線データ通信 60
 - 赤外線データ通信の設定を変更する 97
 - 赤外線ポート 60、141
- ソフトウェア 131
 - 不正コピー禁止について 133
 - ワードパッド 28
 - Adobe Acrobat Reader 15
 - Adobe PhotoDeluxe 13
 - BatteryScope 13、112
 - Communication Center 53
 - Community Place Browser 67
 - DV静止画キャプチャー 80
 - Media Bar 13、64
 - Navin' You Lite 67
 - PictureGear Lite 67、76
 - PowerPanel 109
 - Sony Notebook Setup 96
 - TranXit 61

タ

- ターミナルアダプターカード 91
- タッチパッド 131
 - クリックする 25
 - タッチパッドの感度を調節する 103
 - タッチパッドを使う 24
 - ダブルクリックする 25
 - ドラッグする 25
 - 右クリックする 25
- ダブルクリック 25
- ディスプレイ
 - 外部ディスプレイをつなぐ 74
 - ディスプレイの設定を変更する 115
 - 表示するディスプレイを選ぶ 117
- ディスプレイパネル
 - 閉じたときのモードを設定する 102
 - 開く 20

デジタルスチルカメラ
デジタルスチルカメラから画像を取り込む
76
デジタルスチルカメラを使う 76

データ

書き込み禁止にする 39
バックアップをとる 133
やりとりする 60

デバイス

一時的に使用できないように設定する
106
詳細な設定をする 107

テレビ

テレビをつなぐ 75

電源

電源を入れる 20
電源を切る 21

電話

電話を受ける 57
電話をかける 56
電話を準備する 53
留守番電話として使う 57

電話回線

電話回線の種類 72
電話回線をつなぐ 70

ドッキングステーション

主な接続例 81
取り付ける 82
取りはずす 83
バッテリーを充電する 85
フロッピーディスクドライブを取り付ける
86
CD-ROMドライブを取り付ける 86

ドラッグ 25

ナ

内蔵ハードディスク 139
内蔵モデム
内蔵モデムを電話回線につなぐ 70
日本語入力 28
ネットワーク
ネットワークにつなぐ 62
ネットワークカード 62、91

ハ

ハードディスク 131
取り扱いについて 126
ハードウェアリソース 106

パスワード

削除する 106
登録する 104
変更する 105

パソコン通信

パソコン通信とは 50
パソコン通信を楽しむ 52

バックアップを取る 127

バッテリー

残量を確認する 112
使用時間 112
充電する 48
消費電力を節約する 109
情報を見る 114
セカンドバッテリー 47
取り付ける 46
取りはずす 47、48
ランプ 45

バッテリーベイ 46、139

パラレルポート

パラレルポートの設定を変更する 99

パワーマネージメント機能 109

ビデオカード 91

ビデオCD 64

ファックス

ファックスを受信する 59
ファックスを準備する 53
ファックスを送信する 58

プリンター

プリンターをつなぐ 73

フロッピーディスク

入れる 38
使用できるフロッピーディスク 39
初期化する 38
データを書き込み禁止にする 39
取り扱いについて 127
取り出す 38
フロッピーディスクドライブ
取り付ける 36
取りはずす 37
外づけとして使う 36
内蔵ドライブとして使う 37

プロバイダー 51

ヘルプ 15

ポインター 24

本機の情報を確認する 96

マ

マウス
 マウスをつなぐ 79
 マイク 56、138
 マルチパーパスベイ 37、41、140
 右ボタン 24、25
 モジュラージャック 70
 メモリー 131
 増設する 87
 メモリーカード 63、91
 文字入力 28
 モデム 70

ラ

リカバリーCD
 リカバリーCDで本機を再セットアップする
 148
 リチャージャブルバッテリー 45
 留守番電話 57

ワ

ワードパッド 28

アルファベット順**A**

ACアダプター 20
 AC電源 20
 Adobe Acrobat Reader 15
 Adobe PhotoDeluxe 13
 AMS機能 66

B

BatteryScope 13、112

C

Communication Center 53
 Community Place Browser 67
 CD-ROM
 入れる 42
 お手入れ 129
 使用できるディスク 44
 取り扱いについて 128
 取り出す 43
 CD-ROMドライブ
 取り付ける 41
 取りはずす 41
 CPU 131

D

DV機器
 DV機器から画像を取り込む 81
 DV静止画キャプチャー 80

I

IrDA 60、97

L

LAN 62

M

Media Bar 13、64

N

Navin' You Lite 67
 NTSC 120

P

PAL 120
 PCカード
 PCカードとは 91
 PCカードを使う 91
 PCカードを取り付ける 92
 PCカードを取り出す 94
 PictureGear Lite 67、76
 PowerPanel 109
 PS/2 79

R

RAMボード
 取り付ける 87
 取りはずす 90

S

Save To Diskモード 22、110、135
 SCSIカード 91
 SECAM 120
 Sony Notebook Setup 96

T

TAカード 91
 TranXit 61

W

Windows 95 21、115